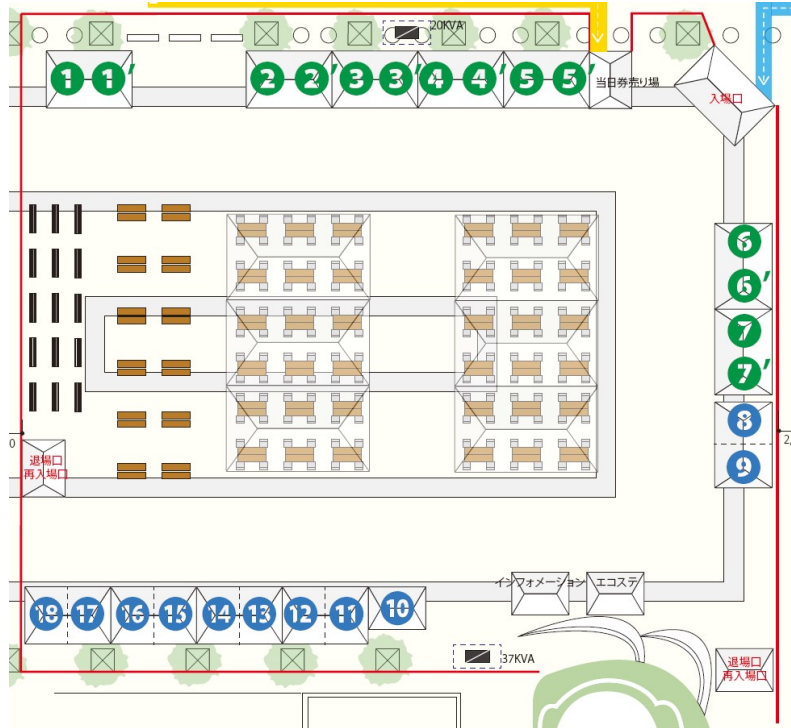
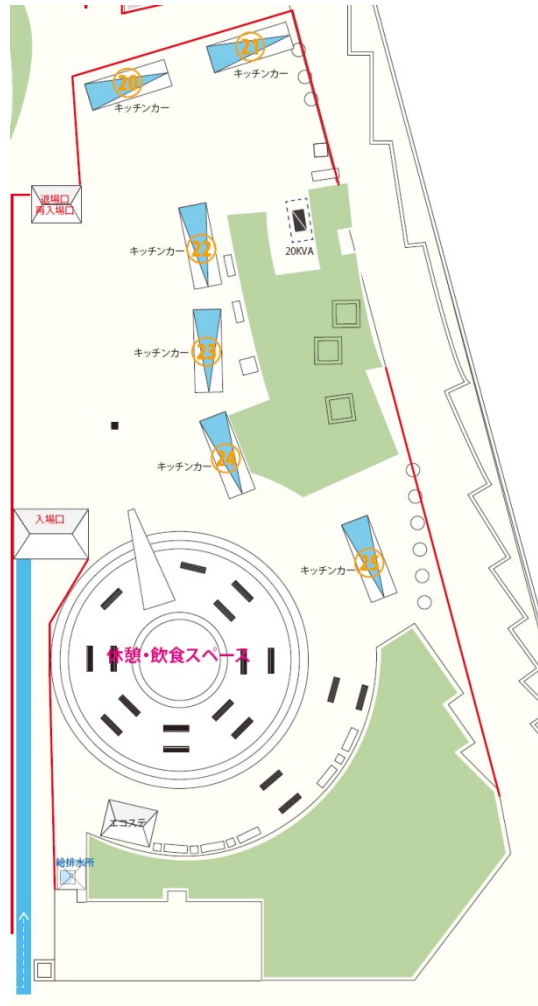


■ 市民広場エリア



■ カフェ前広場エリア





商品購入時の待機列における密対策として
各出店ブース前の足元に最低1m間隔で
ソーシャルディスタンスサインを掲示



■ 実施対応

商品購入時に発生するブース前の待機列において、密が発生することを防止するため、足元へのソーシャルディスタンスサインの掲示や、店舗スタッフによるブース前での整列誘導を実施し、距離を確保して並ぶようご案内した。

また、各ブースごとに販売窓口となる箇所には飛沫防止対策としてビニールシートを設置。さらに出店者様には現金の直接の手渡しを避けるためにコイントレイを各出店者様ごとにご準備いただくようお願いした。また、さらに接触を減らすため、可能であればキャッシュレス決済も導入いただくよう推奨した。

■ 課題・反省点

基本ルールはおおよそ守っていただけていたが、ブース内での火を使う調理による暑さや、飛沫対策シートがあることからの安心からか、稀にマスクを顎にずらして業務、接客にあたる様子が見受けられた。

また、常連のお客様、知人と思われるお客様が、ブース前でマスクを外し飲食をしながら出店者スタッフと談笑している場面が幾度か見受けられた。

ブース前の待機列発生時の対策として足元へのソーシャルディスタンスサインの掲示を行ったが、縦の一方方向への掲示としてしまった場合に、列が長くなり、他のお客様の場内での移動動線と重なってしまう場面が幾度か見受けられた。

また、出店者にはブース前において整理誘導を専属で行うスタッフの配置を求めたため、出店者に人的な負担が生じた。

■ 改善策

出店者に対して、より徹底したルール厳守のお願いを行うとともに、イベント開催中は主催者運営チームがこまめにブースの見回りを行い、ルールが守られていない場合は随時注意喚起を行う。

ブース前の待機列発生時のための足元へのソーシャルディスタンスサイン掲示に関しては、縦・横・斜めと、スペースを有効に使った上での掲示とし、他のお客様の場内移動動線の確保も考慮する。

■ 検証結果（総括）

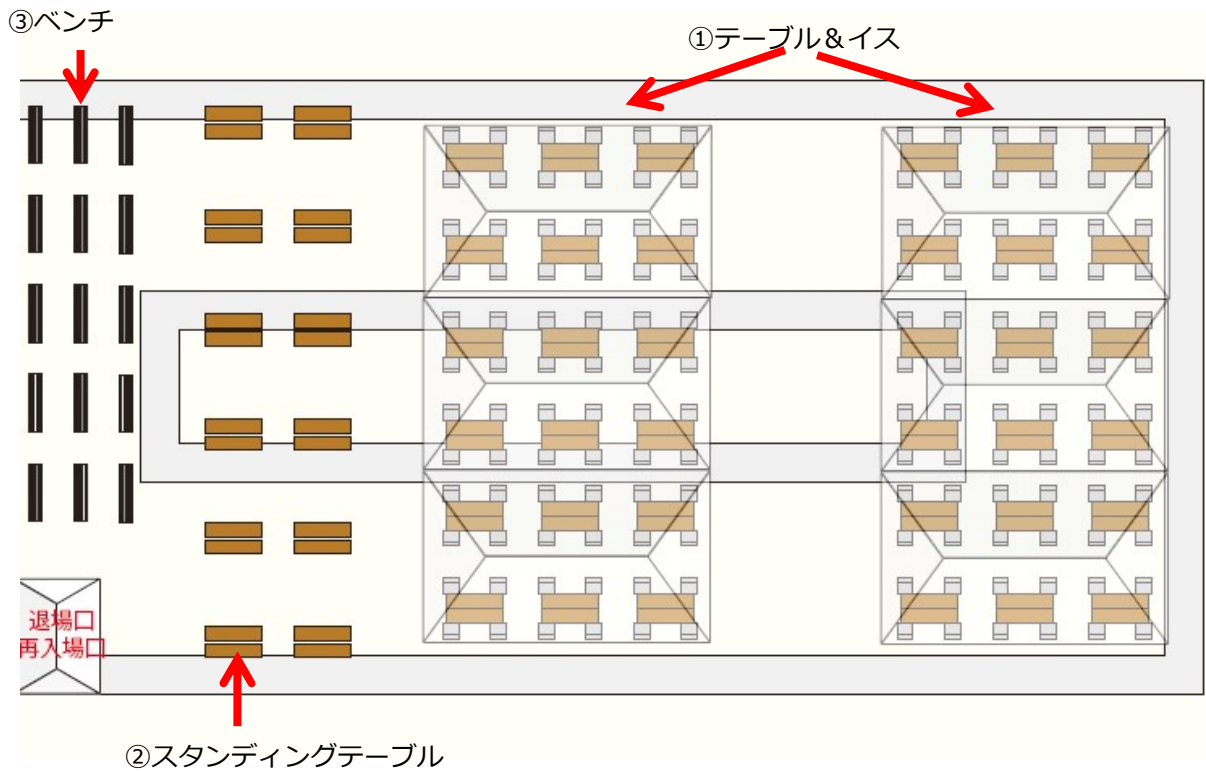
日頃、店舗でも十分な対策を施していることから出店者の皆様の感染症対策の意識も高く、主催者から提示させていただいたルールはおおよそ守られていた。

各出店者様ごとにブース前に整理誘導スタッフを配置するルールであったこと、足元にはソーシャルディスタンスサインを掲示したこと、また、お客様も協力的だったこともあり、商品購入時の待機列の発生時においても、比較的ソーシャルディスタンスは守られていたように見受けられた。

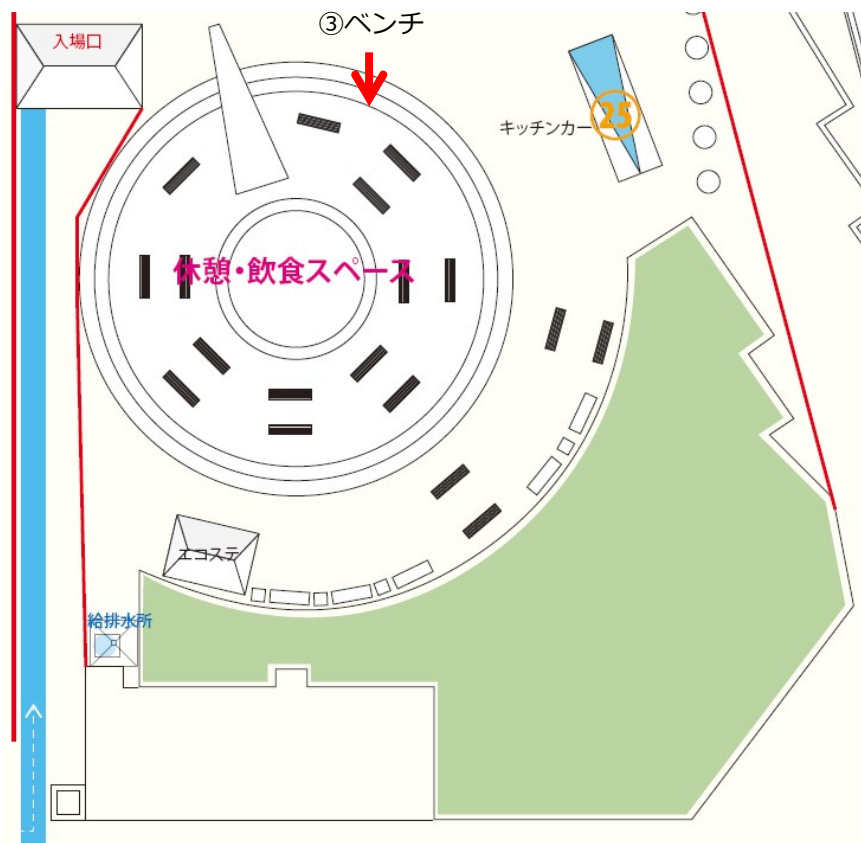
ブースによっては予想以上の待機列が出来たところもあったが、状況に応じてカラーコーン・バー等で待機スペースを設けるなど速やかに対応できていた。

ただし、これらの対策について今回十分に対応できたのは、各パートの入場者数の上限を800名に設定したところによるところが大きいと思われる。入場者数の上限の増加やその他ルールの変更を行う場合には、実施する対策やその体制等について、さらなる注意が必要。

■ 市民広場エリア



■ カフェ前広場エリア





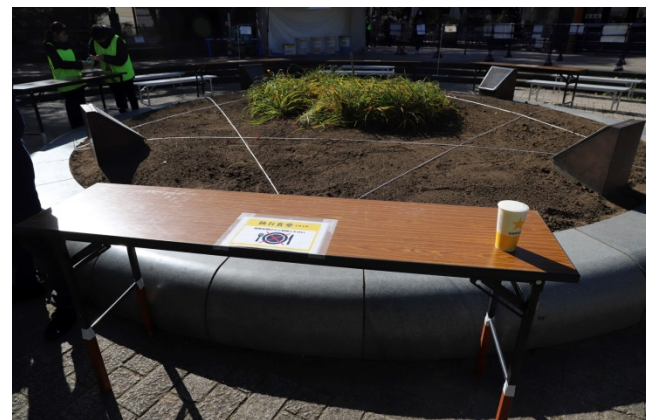
飛沫対策ビニールシートにメッセージ、イラスト等を書き込み、殺風景になりがちなエリアを明るく演出



距離の確保を保ちにくいスタンディングテーブル設置エリアにソーシャルディスタンスサインをスタンドで掲示



主催者による設置物ではないが、お客様が飲食時に
利用されそうな公園の既存物にも
ソーシャルディスタンスサインを掲示



■ 実施対応

飲食&休憩スペースとしては以下の3つの形態を設ける。

①テーブル&イス／②スタンディングテーブルのみ／③ベンチのみ。

①においては向かい合う長テーブルの間に飛沫対策ビニールシートを設置し、テーブル上にはソーシャルディスタンスサインを掲示した。②においてはテーブル上にソーシャルディスタンスサインを掲示し、テーブル間にはスタンド型でソーシャルディスタンスサインを掲示した。

③は3人掛けベンチであったが真ん中にソーシャルディスタンスサインを掲示し2名使用にした。

さらにこれら飲食&休憩スペースには専属のスタッフを配置し、使用するお客様が入れ替わるごとに消毒を実施した。また、パート入れ替え時の1時間を活用して、全てのテーブル・イスのアルコール消毒と清掃を実施した。

加えて、主催者による設営物以外の、公園常設のベンチや腰かけられそうな場所にもソーシャルディスタンスのサインを表示した。

■ 課題・反省点

①のテーブル&イスのスペースにおいては、3名以上で来場されたお客様がイスを移動し、テーブル1本に対して2名使用設定にしているにも関わらず、3名以上で使用されている姿が少なからず見受けられた。(5名以上の団体様など奇数人数での来場時の着席時も課題となった。)

また、①のスペースには雨天対策としてテントを設置していたが、その中で向かい合うテーブルの間に設置した飛沫対策ビニールシートに高さを持たせ過ぎたと思われる。

横幕が無いとはいえ、テント内の換気の良さという観点からすれば反省する点であった。

②のスタンディングスペースではテーブル同士の距離は確保出来ていたが、他グループと向かい合う形でもあったため、①・②・③の中では最もソーシャルディスタンスが守りにくい形態となった。

また、ステージに面した飲食&休憩スペースにおいては、ステージの演目により密集が生じる時間帯があった。

■ 改善策

①のテーブル・イスのスペースではイスの移動を禁止として告知POP等を掲げるとともに、同じグループ内においてもソーシャルディスタンスを意識していただくようご案内する。

さらに向かい合うテーブルの間の飛沫対策ビニールシートはテント内換気の観点からもう少し高さを低くした仕様に変更する。

②のスタンディングテーブルにおいては設置するのであればもっと大幅に距離を確保して設置するか、飛沫対策ビニールシートの設置の検討も必要と思われる。

■ 検証結果 (総括)

2人グループでの来場に関しては、3人掛けベンチやテーブルの真ん中などを、飲食物を置くスペースとしてうまく使われている様子が見られた。

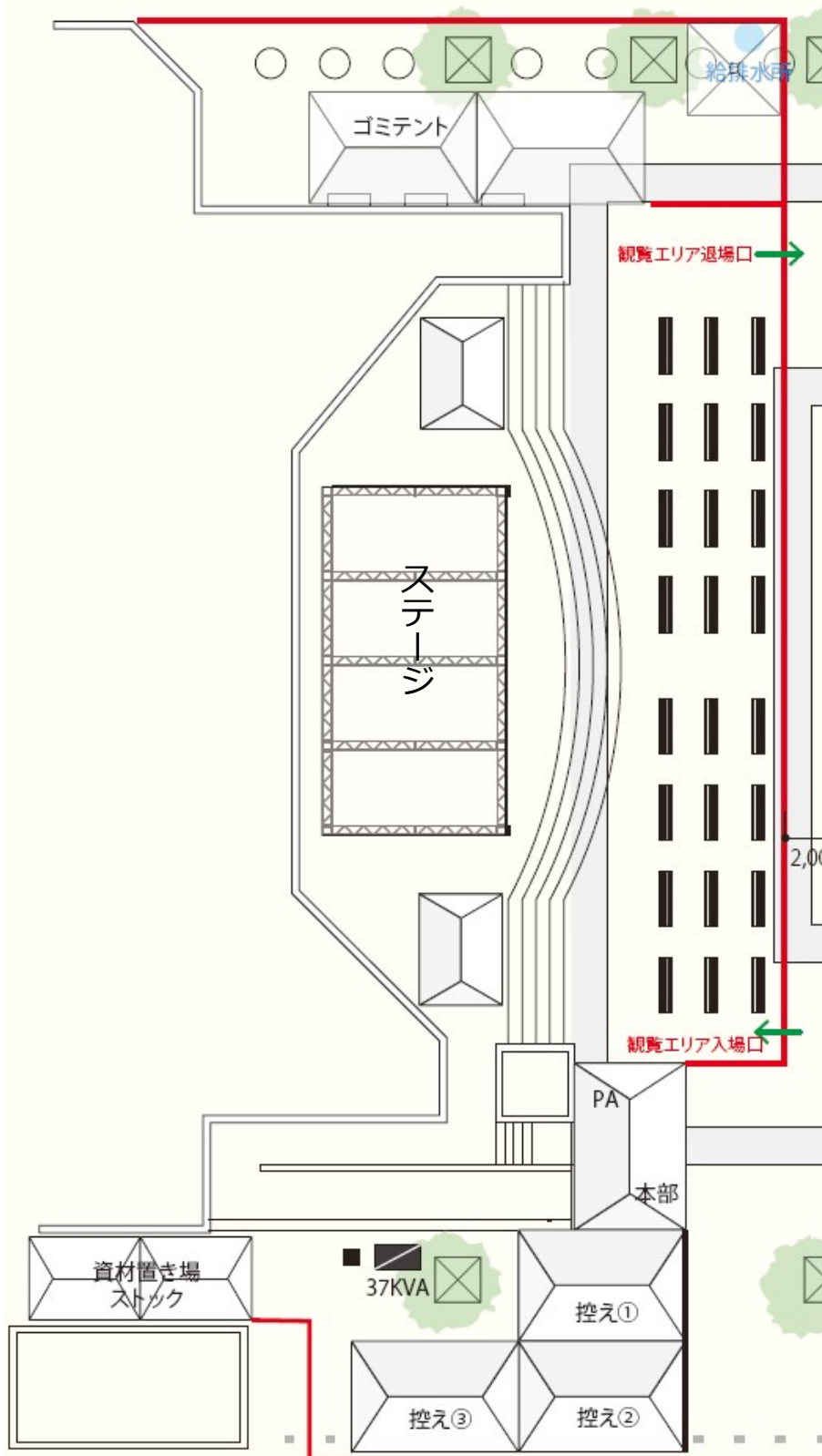
一方、ソーシャルディスタンスを意識していただくPOP等のサイン関連を多く設置し、飛沫対策ビニールシートを設置するとともに、テーブルの配置においても距離を確保できるよう工夫を施してはみたが、どのような対策をとっても3人以上のグループの来場では気が緩み、適度な距離感を保つのはなかなか難しいと感じた。密になることをどこまで制限するかの難しさを感じた。

(例：家族同士、友人同士、知らない人が並びあっているのか？など、見た目だけでは判断が難しい。同じグループで一緒に楽しむことをどこまで制限するかは大きな課題となる。)

また、飲食する時のみマスクを外し、会話をする際にはマスクを着用するよう、協力を呼びかけてみたものの、守っていただくことはなかなか厳しいことと感じられた。

①の飲食テーブル・イススペースに設置した飛沫対策ビニールシートについては、高さの問題はあったものの、ビニール自体にカラーペンでメッセージなどを書き込むことは、通常圧迫感が出て殺風景になりがちなスペースに変化を与えることができる良い施策だと思えた。

■ステージエリア







■ 実施対応

観客席エリアにはベンチを設置した。3人掛けベンチの真ん中にソーシャルディスタンスサインを掲示し、2人掛け対応とした。また、観客席エリアは入場人数の制限（座席数分）を行ったうえで、入場口、退場口をそれぞれステーションに向かって左右に分けて設置し、エリア内は一方通行とし、円滑な誘導を試みた。

ステージと観客席の最前列は4m以上の距離を確保し、観覧時も拍手は問題ないが、大声を出しての声援などのご遠慮いただくよう、司会者による注意アナウンスを実施した。観覧席で着席しているお客様が入れ替わる際には、専属のスタッフによりイスのアルコール消毒を実施し、消毒終了後に次のお客様をご案内とした。

出演者側への対策としては、司会者、団体演技のプログラムなど必要と思われるケースにはマウスシールドの着用を実施し、ステージ上で使用するマイクは出演者ごとの専用とし、使いまわし禁止とした。

また、マネージャーなど付き添いの関係者も最小限の人数に限定し、バックヤード（控室エリア）においては各テーブル間も十分な距離感を保った上、ケータリングドリンクの共有（2リットルペットボトル）は禁止、菓子類は個別パッケージでの提供とした。

■ 課題・反省点

司会者へのマウスシールド着用の指示が遅れ、初日開会のタイミングでは未着用であった。

ステージと観客席の最前列は4m以上の距離を確保した上、出演者に対しては、演奏（演舞）中に、観客席に近づくような演出は行わないようルールを設定していたが、一部守られない状況が見られた。

■ 改善策

開会后、司会者にマウスシールドを着用させた。
演者の観客席への接近は本番後に口頭注意を行い、次のステージでは解消された。

■ 検証結果

本パートはほぼ計画通りに実施することができた。
ただし、現在規制を行いながら実施されているスポーツ観戦同様に、オーディエンスの距離や声援そのものが規制される「ライブステージ」は、やはり本来の盛り上がりには欠けると感じた。

【 各業務・スタッフ別対応の検証 】

●主催関係者（主催者・運営スタッフ）による感染予防・感染拡大防止策

▼主催者を含む関係者には毎朝の検温を義務づけ、以下のいずれかに該当する者は業務に従事させないこととする。

（直ちに自宅待機とし、必要に応じ保健機関に連絡する）
業務に従事させる必要性が高い者であっても、
感染拡大により生じる重篤な結果を常に想定する。

※以下のどれか一つでも該当する項目がある場合は主催・運営関係者であっても当日の来場は遠慮いただく。

<入場前事前チェック項目>

- ・業務に従事するイベント開催当日または前日に37.5℃以上の発熱・咳・下痢・味覚障害・嗅覚障害・だるさ・息苦しさ等の症状がある者。
- ・新型コロナウイルス感染症の陽性と判明した者との濃厚接触がある者。
- ・同居家族や身近な知人の感染が疑われる者。
- ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域等への渡航及び当該国・地域の在住者との濃厚接触がある者。
- ・新型コロナウイルス感染症の陽性判定を受け、現在医師から自宅待機指示を受けている者。

▼業務にあたる際はマスク着用を必須とし、担当セクションによっては手袋の着用やフェイスシールドの併用も検討する。

▼主催者、出店者、運営関係者の緊急連絡先や勤務状況を把握し、名簿を作成する。

名簿は3週間より長い期間で保管することとし、また、関係者個人に対しては、それら情報が必要に応じて保健所等の公的機関へ提供され得ることを事前に周知し事前承諾を得ることとする。
名簿作成者（主として主催者）は個人情報保護の観点から、名簿等の保管には十分な対策を講ずることとする。

（後日、会場内に感染者がいたことが判明した場合等に保健所などに申告内容を伝える等が想定され、その了承を事前に得ておく）。

▼スタッフテント及び控室テントなど、バックヤード的なスペースにもアルコール手指消毒剤を設置し、手指消毒を奨励する。

運営備品等の主催関係者が接触する可能性がある設備及び共有する機器に関しても、頻繁な清拭消毒を行うものとする。

なお、機材や備品、用具等の取扱い者を選定し、不特定者の共有を制限する。

▼期間中に業務に従事する全スタッフにおいて

本番1週間からの検温及び9項目の体調チェックシート記入、
本番1週間からの行動履歴記入（密を生じる場所への滞在記録や体調不良者との接触歴等）。

※記入した用紙は実行委員会が回収し厳重に管理。最低1ヶ月保管する。

■実施対応

アルバイトスタッフ含め、全関係者の連絡先を各担当ごとに管理・把握できる体制とした。両日ともに朝の会場入りの際には検温、手指のアルコール消毒を実施した。担当セクションの業務内容に応じて、必要と思われるポジションではマスクに加えて、フェイスシールドやビニール手袋の着用を実施した。トランシーバーなど、備品の共有（使い回し）は禁止とした。

■課題・反省点

特に無し

■改善策

特に無し。

■検証結果

感染症対策のマニュアル化と事前のスタッフへのオリエンテーションの実施により、このイベントにおいては感染者を絶対に出さないという意識の共有を徹底したことでスタッフ間でのやり取りや、接客面においてもルールは守られていた。

●出店者・協賛社（飲食提供）による感染予防・感染拡大防止策

- ▼前述の＜入場前事前チェック項目＞のどれか一つでも該当する項目がある場合は出店関係者であっても当日の来場、業務への従事は遠慮いただく。
- ▼出店者も会場入場時には検温を実施した上で、手指消毒を行った後に来場記録も残し、出店ブースへの入室とする。
緊急連絡先や勤務状況を把握し、名簿を作成し、主催者に提出していただく。
名簿は3週間より長い期間で保管することとし、また、関係者個人に対しては、それら情報が必要に応じて保健所等の公的機関へ提供され得ることを事前に周知し事前承諾を得ることとする。
名簿作成者（主として主催者）は個人情報の保護の観点から、名簿等の保管には十分な対策を講じる。
（後日、会場内に感染者がいたことが判明した場合等に保健所などに申告内容を伝える等が想定され、その了承を事前に得ておく）。
- ▼出店者は必要最低限のスタッフ人数で運営にあたることとする。
特別な理由が無い限り、1ブース（テント）に入室できるスタッフ人数も事前に制限し、ご理解いただいた上で出店いただく。
- ▼お客様と対面するブース前面には飛沫対策用ビニールシートを設置する。販売スタッフはマスク（適宜フェイスシールド）、手袋の着用を義務化し、さらにお客様用の手指用アルコール消毒液、スタッフ用のアルコール手指用消毒液として、最低2本以上は各ブースごとに設置することを義務化する。
マスク（フェイスシールド）、手袋を外したあとは、手洗い、アルコールでの手指消毒を徹底する。
- ▼食器類、箸などは使い捨て用品に限定する。
- ▼販売メニュー・販売価格はお客様が外観で一目できる装飾とし、手持ちメニュー（使い回し）などは禁止とする。
- ▼お客様同士のお酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けるよう、メニューによっては、POPの掲示等により注意喚起する。
- ▼食事の際に数人でシェアされやすいような大皿メニューの販売は出来る限り避け、シェアを控えるよう注意喚起も行う。
- ▼現金の直接の手渡しを避けるため、出店者ごとにコイントレイをご準備いただく。

※項目ごとのチェックシートを作成し、オープン前、お客様の入れ替えのタイミングに主催者運営チームで全ての出店社の見回りを行う。
上記のルールがきちんと守られているか監視、チェックシートにマークを付け、ルール厳守をしていただく。
- ▼期間中に業務に従事する全スタッフにおいて
本番1週間からの検温及び9項目の体調チェックシート記入、
本番1週間からの行動履歴記入（密を生じる場所への滞在記録や体調不良者との接触等）の実施。
※記入した用紙は実行委員会が回収し厳重に管理。最低1ヶ月保管とする。

■ 実施対応

アルバイトスタッフ含め、全関係者の連絡先を各出店者ごとに管理・把握できる体制とした。両日ともに朝の会場入りの際には検温、手指のアルコール消毒を実施した。担当セクションの業務内容に応じて、必要と思われるポジションではマスクに加えて、フェイスシールドやビニール手袋の着用を実施した。必要最小限の業務従事者数での参加としていただいた。また、お客様用とスタッフ用で最低2本のアルコール消毒液をご持参いただくとともに、接触の機会を減らすためのコイントレイも準備いただいた。また、さらに接触機会を減らすため、可能であればキャッシュレス決済の導入も推奨した。

■ 課題・反省点

基本ルールはおおよそ守っていただけていたが、ブース内での火を使う調理による暑さや、飛沫対策シートがあることからの安心からか、稀にマスクを顎にずらして業務、接客にあたる様子が見受けられた。また、常連のお客様、知人と思われるお客様が、ブース前でマスクを外し飲食をしながら出店者スタッフと談笑している場面が幾度か見受けられた。

■ 改善策

出店者に対して、より徹底したルール厳守のお願いを行うとともに、イベント開催中は主催者運営チームがこまめにブースの見回りを行い、ルールが守られていない場合は随時注意喚起を行う。

■ 検証結果

日頃、店舗でも十分な対策を施していることから出店者の皆様の感染症対策の意識も高く、主催者から提示させていただいたルールはおおよそ守られていた。

●ステージ運営管理における感染予防・感染拡大防止策

▼前述の<入場前事前チェック項目>のどれか一つでも該当する項目がある場合はステージ出演者、関係者であっても当日の来出演、業務への従事は遠慮いただく。

<観覧者：お客様対応>

▼ステージの周辺は飛沫感染のおそれがあるため、観覧席はステージ最前より4m以上の距離を確保する。

▼観客席は最低1mは離してベンチを設置。
3人掛けベンチの真ん中にソーシャルディスタンスサインを掲示し、2名掛け仕様で対応。

▼観覧席で着席しているお客様が入れ替わる場合には専属のスタッフによりイスのアルコール消毒を実施し、消毒終了後に次のお客様をご案内することとする。
観覧者はマスク着用必須とし、拍手は可とするが、大声を出しての声援などはご遠慮いただく。

<出演者管理・対応>

▼出演者、事務所関係者などに関しても、検温を実施した上で、手指消毒を行ってから控室へ入室いただく。
また、来場記録も残す。
名簿作成およびその保管期間、また、それら情報が必要に応じて保健所等の公的機関へ提供され得ることについての事前承諾などは、全て他の関係者への対応に準じる。

▼当日の来場に関して、マネージャーや事務所スタッフなども必要最小限人数の付き添いとしていただき、控室スペースのテントに入室する人数も制限する。
また、テントに関しても定期的に十分な換気を行う。

▼ケータリングに関して、ドリンクは2リットルなどの大型ペットボトルから紙コップなどへの注ぎ分けは禁止とし、各自独占できる500mlペットボトルなどに限定する。また、菓子類なども個別パッケージのもののみ提供することとし、出来る限りの飲食物の共有を避ける。

▼歌唱形式でのステージ出演者など、表現上困難な場合を除き、原則としてマスクの着用を求めるとともに、手洗いや手指消毒を徹底します。マスクの着用ができない場合については、演奏・演舞・歌唱中も出演者同士の身体的距離の確保として、2メートルを目安に（最低1メートル）確保するよう努める。
また、身体的な接触はステージ上でも控えることとする。

▼マイクは出演者ごとに用意し、使い回しは禁止する。⇒ 都度、マイク差し替えにて対応する。
（ミュージシャンには、自前のマイクの持ち込みを推奨する。）
マイクの使用前後には、手洗いや手指消毒を行うとともに、使用した機器の消毒を徹底して行う。

▼ステージの周辺は飛沫感染のおそれがあるため、ステージ周辺で作業を行う関係者は、作業の前後に手洗いや手指消毒を行うとともに、ステージ機器の消毒を出演者が入れ替わるごとに徹底して行う。

▼期間中に業務に従事する全スタッフにおいて
本番1週間からの検温及び9項目の体調チェックシート記入、
本番1週間からの行動履歴記入（密を生じる場所への滞在記録や体調不良者との接触歴等）の実施。
※記入した用紙は実行委員会が回収し厳重に管理。最低1ヶ月保管とする。

■ 実施対応

出演者サイドでは本人に加え、マネージャーなどの付き添いスタッフも含め全関係者の連絡先を各担当ごとに管理・把握できる体制とした。
(付き添いスタッフも最大でも2名以内に制限した。)
両日ともに会場入りの際には検温、手指のアルコール消毒の実施。
ステージ本番以外ではマスクの着用を必須とし、控室内でのソーシャルディスタンスも徹底、ケータリング、備品の使い回しも禁止とした。

■ 課題・反省点

司会者へのマウスシールド着用のタイミングが遅れた。

■ 改善策

管理責任者のスタッフへの的確な指示で改善可能である。

■ 検証結果（総括）

感染症対策のマニュアル化と事前のスタッフへのオリエンテーションの実施により、このイベントにおいては感染者を絶対に出さないという意識の共有を徹底したことでスタッフ間でのやり取りや、接客面においてもルールは守られていた。

●警備員における感染予防・感染拡大防止策

- ▼前述の＜入場前事前チェック項目＞のどれか一つでも該当する項目がある場合は当日の来場、業務への従事は遠慮いただく。

＜夜間警備＞

- ▼夜間の巡回警備時など、人と接触する機会が少ない業務時間帯もマスクと手袋の着用を基本とする。
- ▼警備車両に待機する際にも窓を開けての定期的な換気、アルコールによる手指消毒を行う。誘導灯、トランシーバーなどの装備品も他の警備員と共用しないこととし、交代で仮眠をする際に使用する毛布なども個人ごとの所有物とする。

夜間警備から日中の雑踏警備への引き継ぎを行う際も、備品の引き継ぎ・共有は禁止とする。

＜日中・雑踏警備＞

- ▼マスクと手袋の着用、定期的なアルコールによる手指消毒を行う。
- ▼雑踏・誘導警備業務に従事する警備員は、不特定又は多数の者と応接等する機会があるためお客様とのソーシャルディスタンスを常に意識し、業務にあたる。また、警備業務用資機材である誘導棒、トランシーバー、拡声器など、資機材を介しての接触感染のおそれも高いことから、複数の警備員で資機材を共有して使用することは禁止とするとともに、警備業務用資機材をこまめにアルコール消毒し、手洗いを徹底する。
- ▼期間中に業務に従事する全スタッフにおいて本番1週間からの検温及び9項目の体調チェックシート記入、本番1週間からの行動履歴記入（密を生じる場所への滞在記録や体調不良者との接触歴等）の実施。
※記入した用紙は実行委員会が回収し厳重に管理。最低1ヶ月保管とする。

■ 実施対応（達成状況）

夜間警備2名、開催中警備4名での対応。
業務従事者全員の連絡先を管理・把握できる体制とした。
警備業務用資機材である誘導棒、トランシーバー、拡声器など、資機材を介しての接触感染を避けるために、複数の警備員で資機材を共有して使用することは禁止とするとともに、警備業務用資機材をこまめにアルコールで消毒し、手洗いを徹底。

■ 課題・反省点

特に無し。

■ 改善策

特に無し。

■ 検証結果（総括）

他業務における警備経験からも感染症対策のルールはしっかりと守られていた。
今回は配置人数も多くなかったことから管理しやすい状況であったが、規模感が大きく、人員が増える場合にはさらなる注意が必要である。

【 アンケート実施結果 】

- 来場者アンケート回答者の構成 (1日100名×2日=200名)
- 関係者アンケート回答者の構成 (2日間合計：161名)

来場者アンケート

スタッフ設問型

この度は「仙台食堂2020」にご来場ありがとうございます。今後のイベント開催の参考とするため、下記アンケートへご協力をお願いします。

Q1. イベントは何でお知りになりましたか？

仙台市地下鉄ポスター テレビ・ラジオ 出店飲食店 知人から その他

Q2. イベントへの来場動機は？

(複数回答可)

魅力ある飲食店が出店していた 魅力あるアーティストが出演していた
 市内中心部で久々に実施されたイベントだった
 その他 ()

Q3. 屋内イベントと屋外イベントではどちらが安心だと感じますか？

屋内イベント 屋外イベント

Q4. 入場者を限定するチケット制について

妥当だと感じた 面倒だと感じた

Q5. 入場チケット料金について

高いと感じた 丁度良いと感じた 安いと感じた

Q6. 会場内の収容人数は、適正だと感じましたか？

少ないと感じた 丁度良いと感じた 多いと感じた

Q7. イベント会場内のコロナ対策において、安心感を得られたものについて

(複数回答可)

入場時の検温 手指消毒液の設置 お客様情報の登録 定期的な消毒
 ソーシャルディスタンス 飛沫防止ビニール 飲食時以外のマスク着用

Q8. イベント会場内で密を感じたところがありますか？

(複数回答可)

入場受付 飲食店ブース前 飲食スペース ステージ観覧スペース トイレ
 キッチンカー横丁ブース前 キッチンカー横丁飲食スペース エコステーション

Q9. イベント会場内のコロナ対策において、場内でのアナウンスや周知は十分でしたか？

十分 不十分 (理由:)

Q10. 接触確認アプリ「COCOAアプリ」をインストールしていますか？

はい いいえ

Q11. 今回と同じようなコロナ対策を講じたイベントがまた開催されるとしたら？

参加してみたい
 参加したくない (理由:)

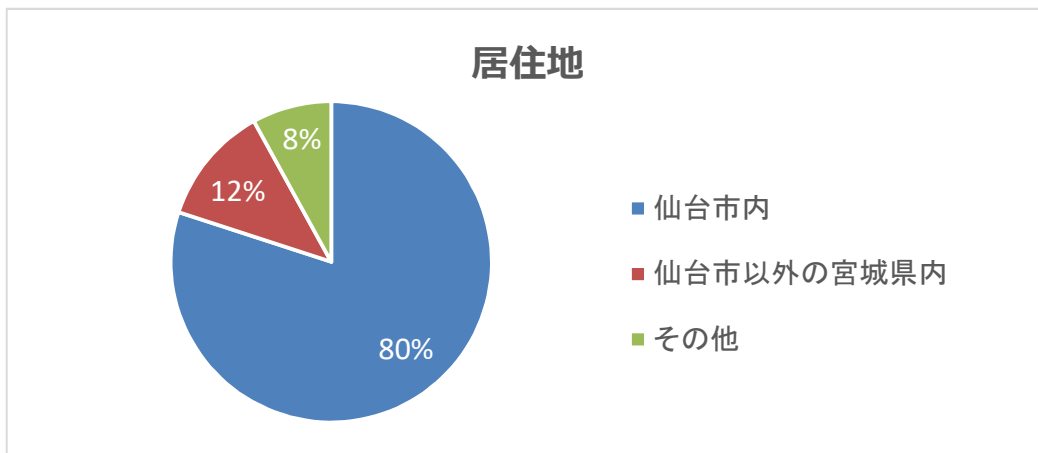
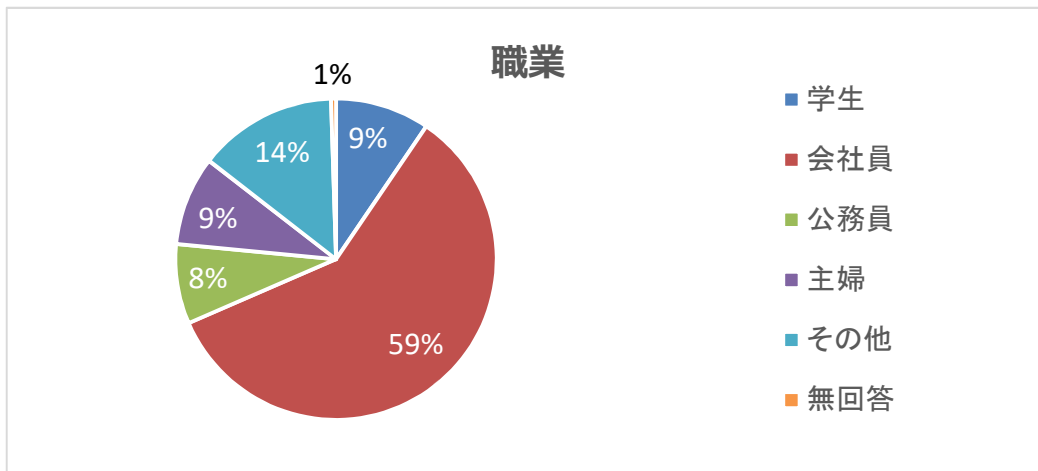
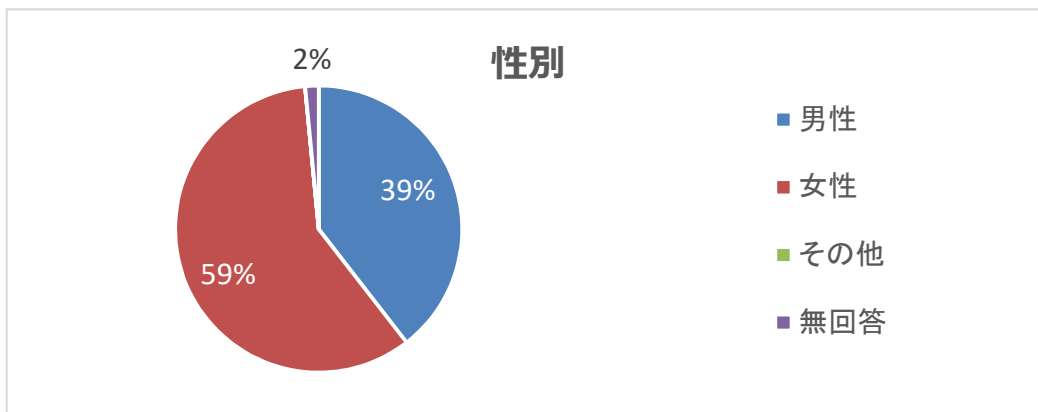
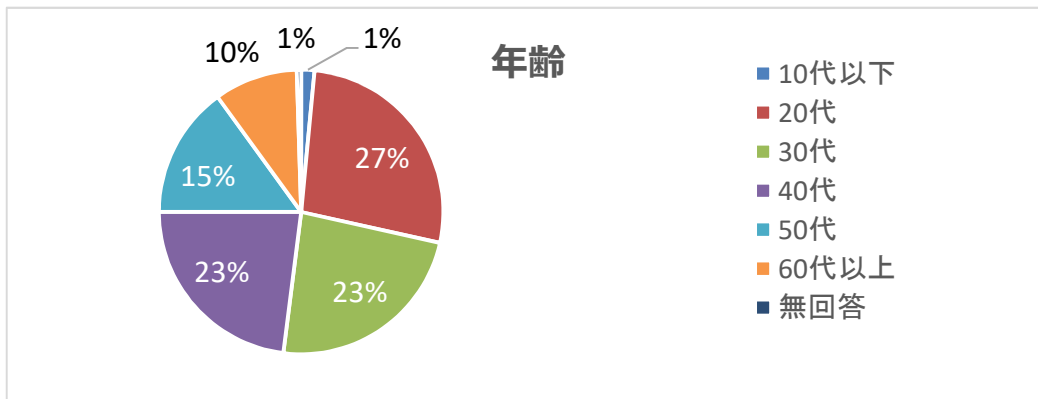
■ お客様情報

年齢 10代以下 20代 30代 40代 50代 60代以上

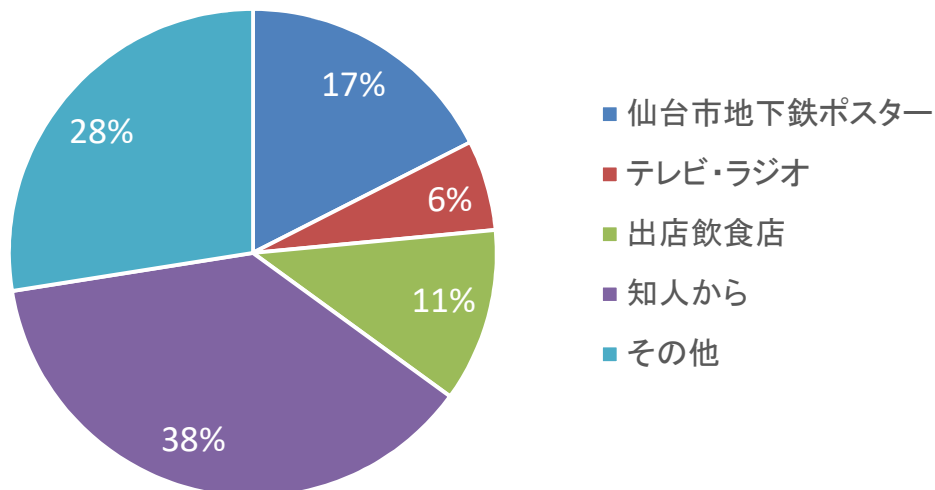
性別 男性 女性 その他

居住地 仙台市内 仙台市以外の宮城県内 その他

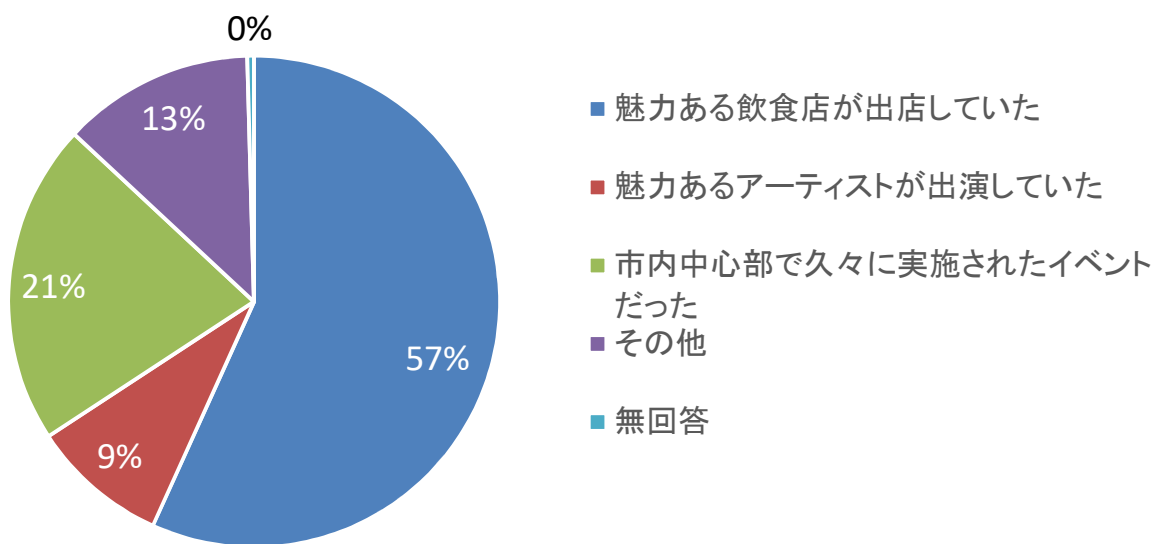
職業 学生 会社員 公務員 主婦 その他



Q1 イベントは何でお知りになりましたか？



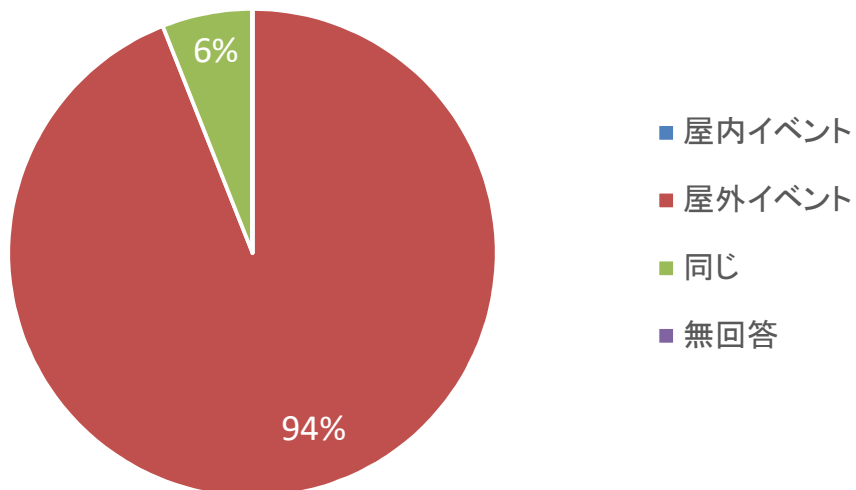
Q2 イベントへの来場動機は？



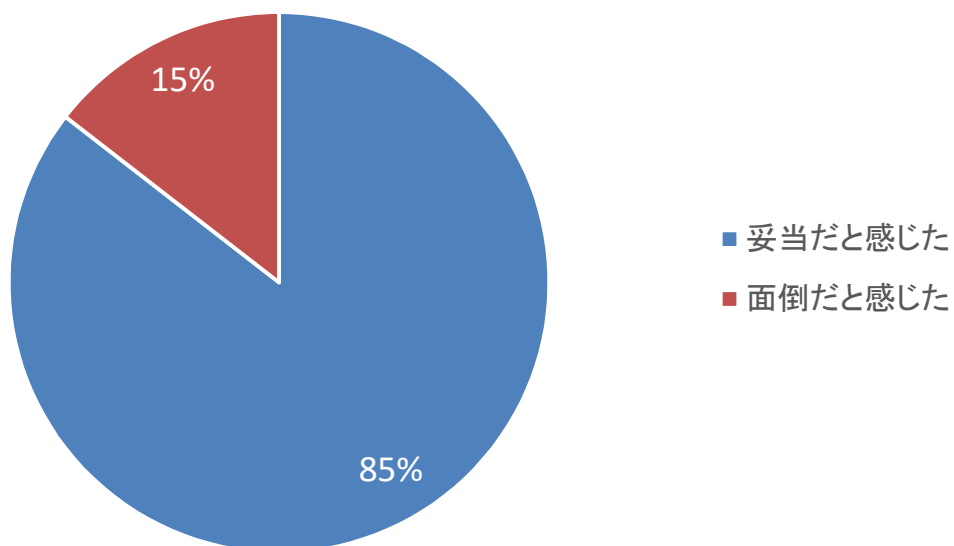
(その他)

- ・地元のお店を応援したかったから。・屋外イベントだから ・勢い コロナ禍でも楽しそう
- ・地元の食材を使っていたから ・市内中心部で久々に実施されたイベントだった ・ビールが飲める

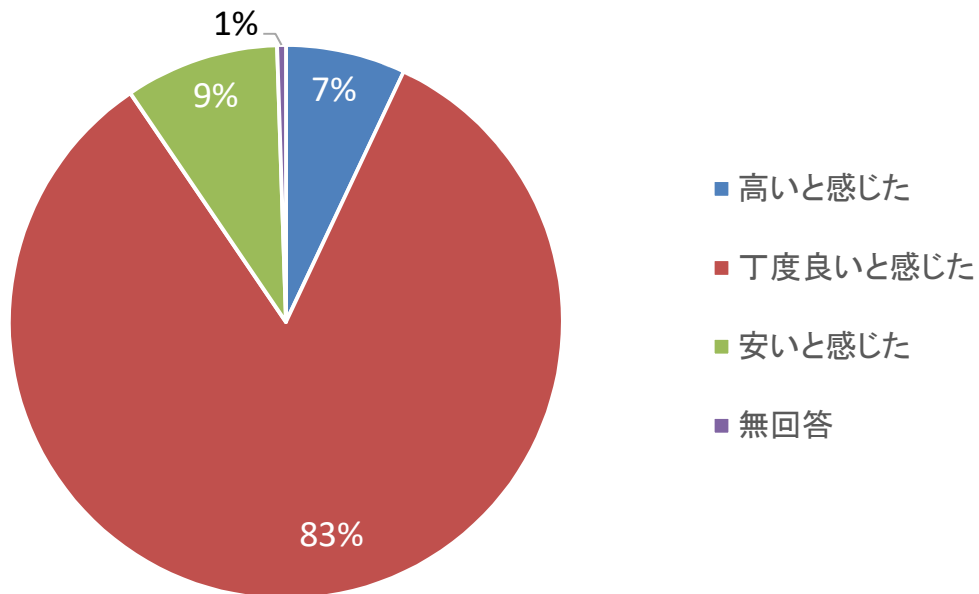
Q3 屋内イベントと屋外イベントでは
どちらが安心だと感じますか？



Q4 入場者を限定するチケット制について

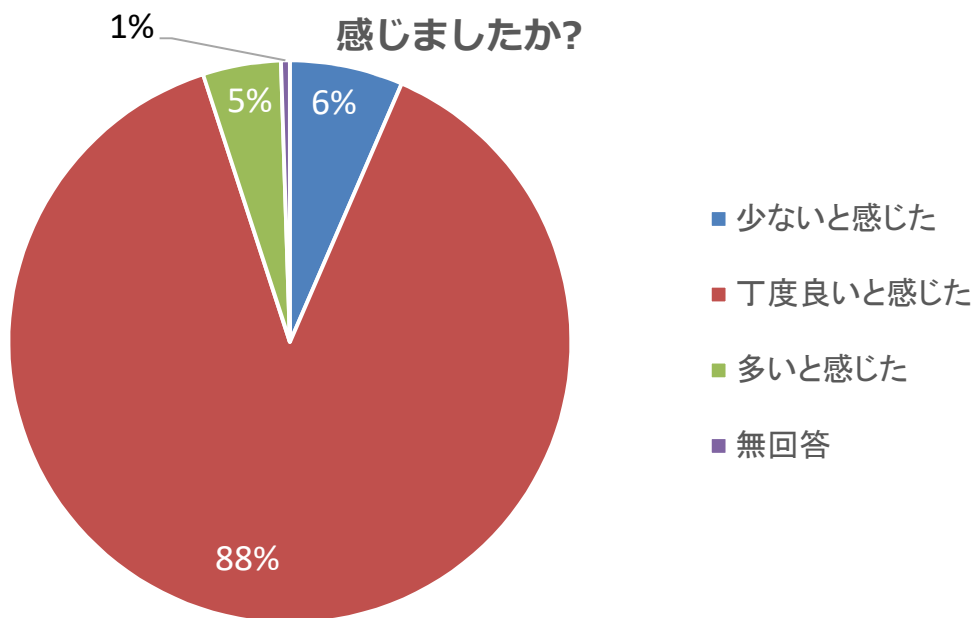


Q5 入場チケット料金について

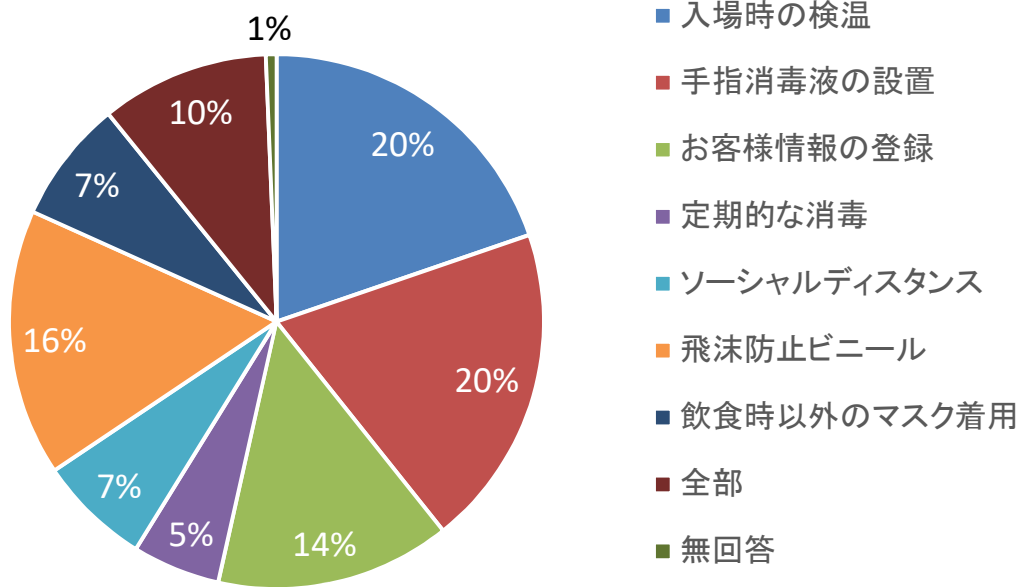


Q6 会場内の収容人数は適正だと

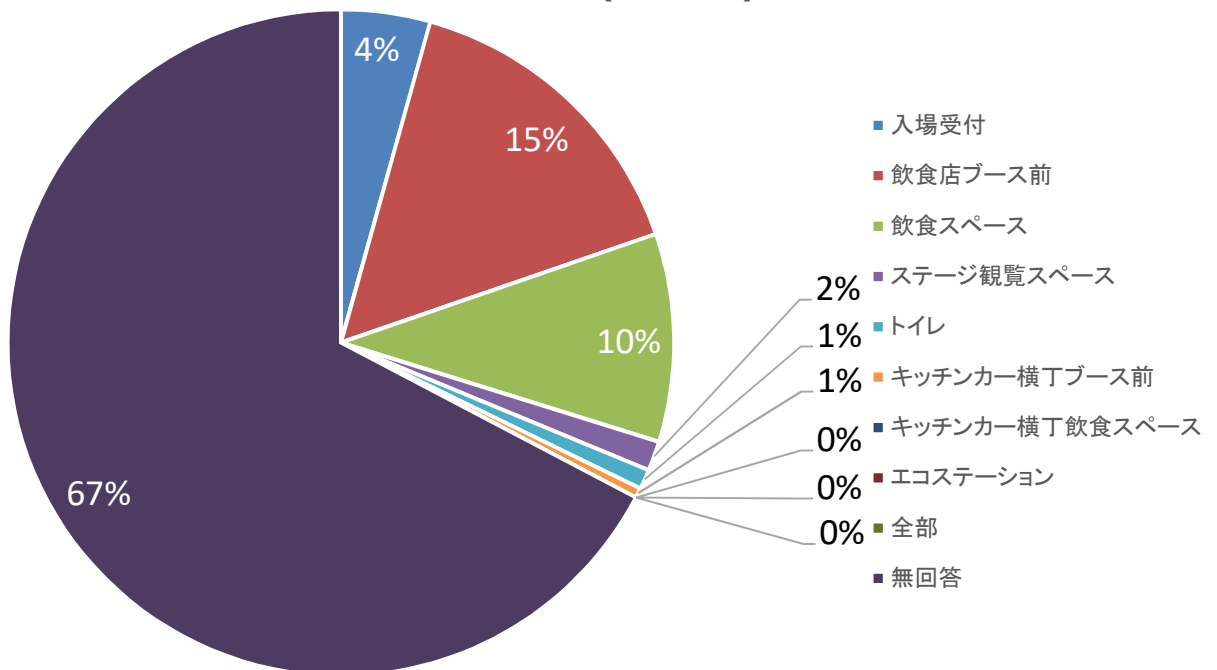
感じましたか?



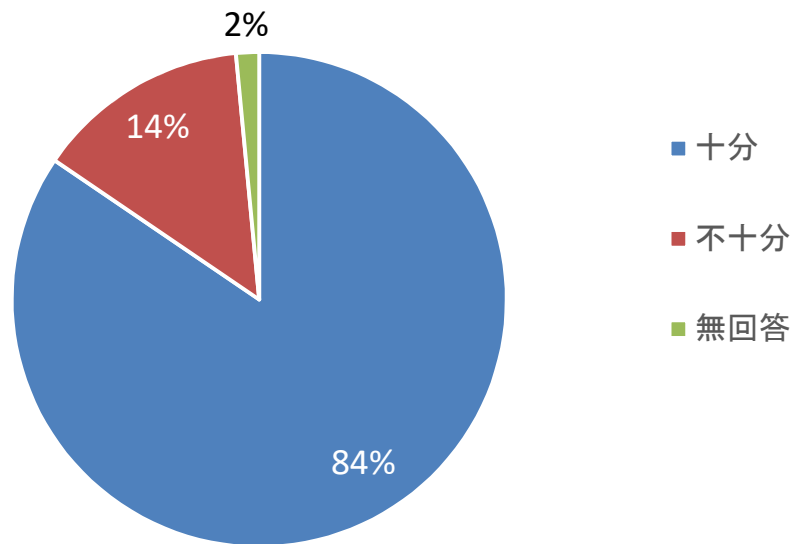
Q7 イベント会場内のコロナ対策において、安心感を得られたものについて
(複数回答)



Q8 イベント会場内で密を感じたところは
ありますか?(複数回答)



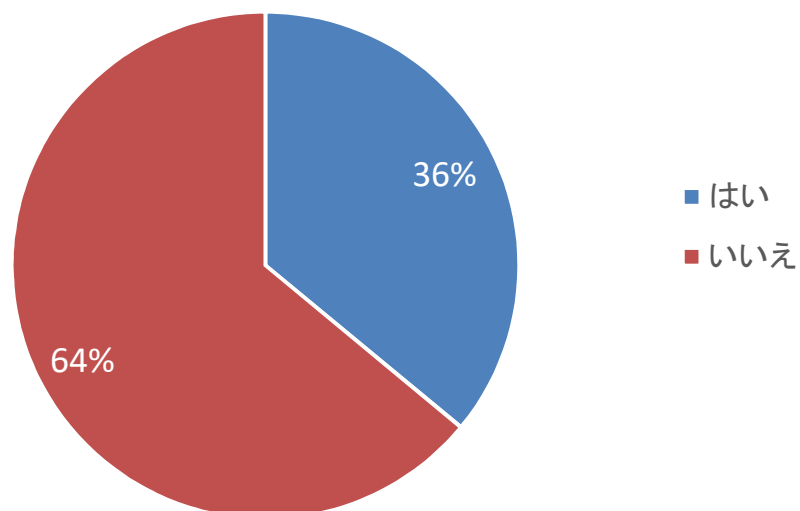
Q9 イベント会場内のコロナ対策において、場内でのアナウンスや周知は十分でしたか？



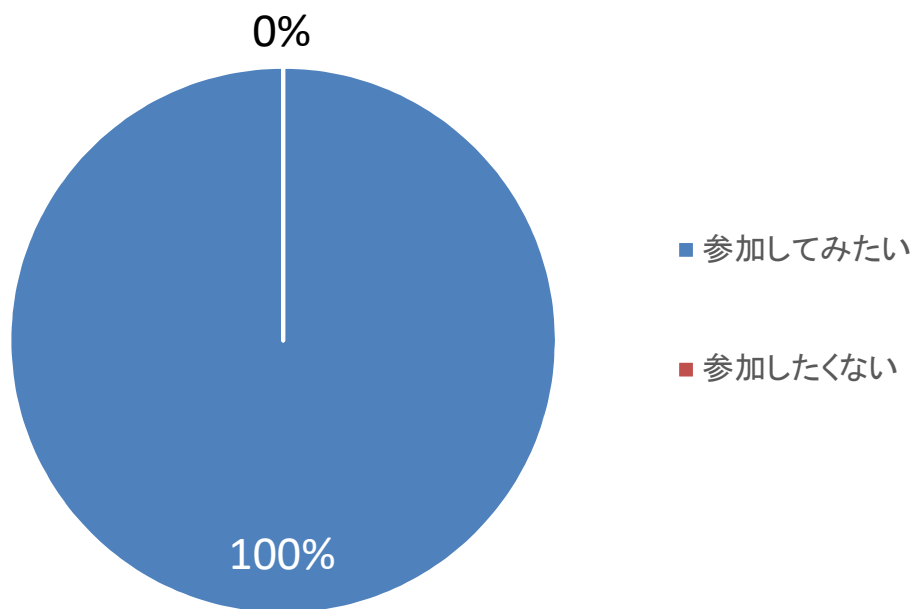
(不十分)

- ・ 歌で全然聞こえなかった
- ・ アナウンスを聞いていない
- ・ 回数が少なかった
- ・ 聞いていない
- ・ 場所によって聞きづらい

Q10 接触確認アプリ「COCOAアプリ」をインストールしていますか？



Q11今回と同じようなコロナ対策を講じた
イベントがまた開催されるとしたら？



関係者アンケート

独自記入型

「仙台食堂2020」関係者の皆様、お疲れさまです。
今後のイベント開催の参考とするため、下記アンケートへご協力をお願いします。

Q1.新型コロナウイルス流行後のイベント参加は何回目ですか？

今回が初めて 2回目 3回目 4回以上

Q2.屋内イベントと屋外イベントではどちらが安心だと感じますか？

屋内イベント 屋外イベント

Q3.入場者を限定するチケット制について

妥当だと感じた 面倒だと感じた

Q4.入場チケット料金について

高いと感じた 丁度良いと感じた 安いと感じた

Q5.会場内の収容人数は、適正だと感じましたか？

少ないと感じた 丁度良いと感じた 多いと感じた

Q6.イベント会場内のコロナ対策において、安心感を得られたものについて (複数回答可)

入場時の検温 手指消毒液の設置 お客様情報の登録 定期的な消毒
 ソーシャルディスタンス 飛沫防止ビニール 飲食時以外のマスク着用

Q7.イベント会場内で密を感じたところがありますか？ (複数回答可)

入場受付 飲食店ブース前 飲食スペース ステージ観覧スペース トイレ
 キッチンカー横丁ブース前 キッチンカー横丁飲食スペース エコステーション

Q8.イベント会場内のコロナ対策において、場内でのアナウンスや周知は十分でしたか？

十分 不十分 (理由: _____)

Q9.接触確認アプリ「COCOAアプリ」をインストールしていますか？

はい いいえ

Q10.今回、接客・営業をして困ったこと、不安に思ったことはございますか？

特にない
 あった (内容: _____)

Q11.今回と同じようなコロナ対策を講じたイベントがまた開催されるとしたら？

出店してみたい
 出店したくない (理由: _____)

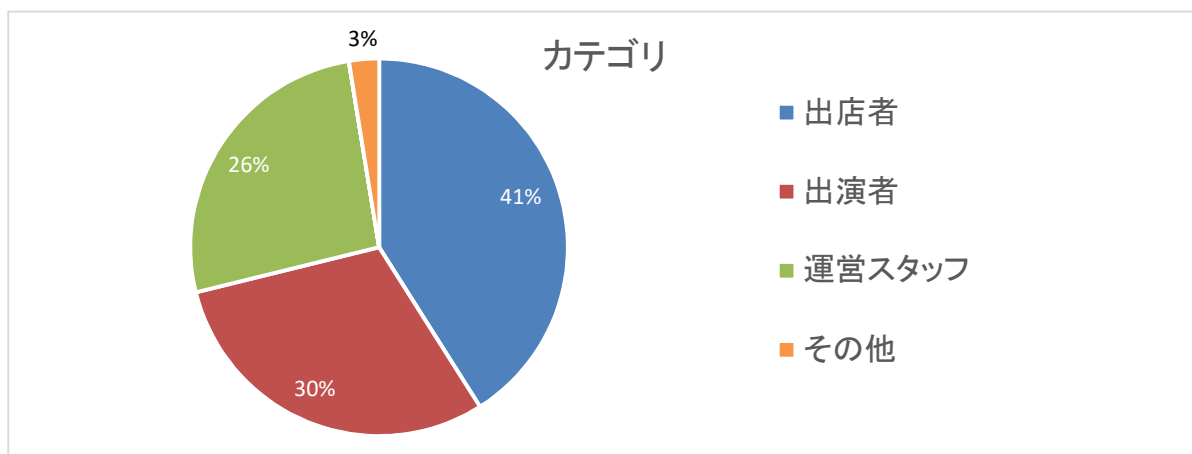
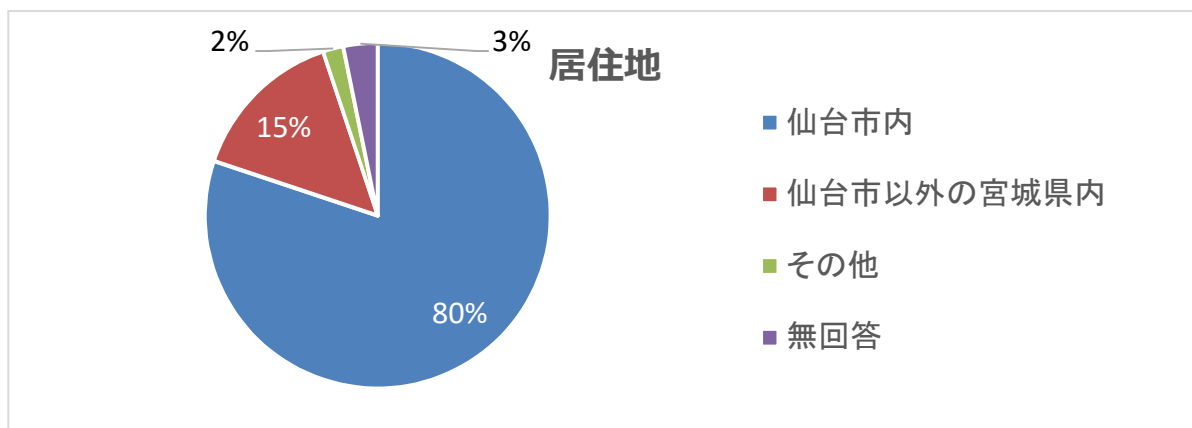
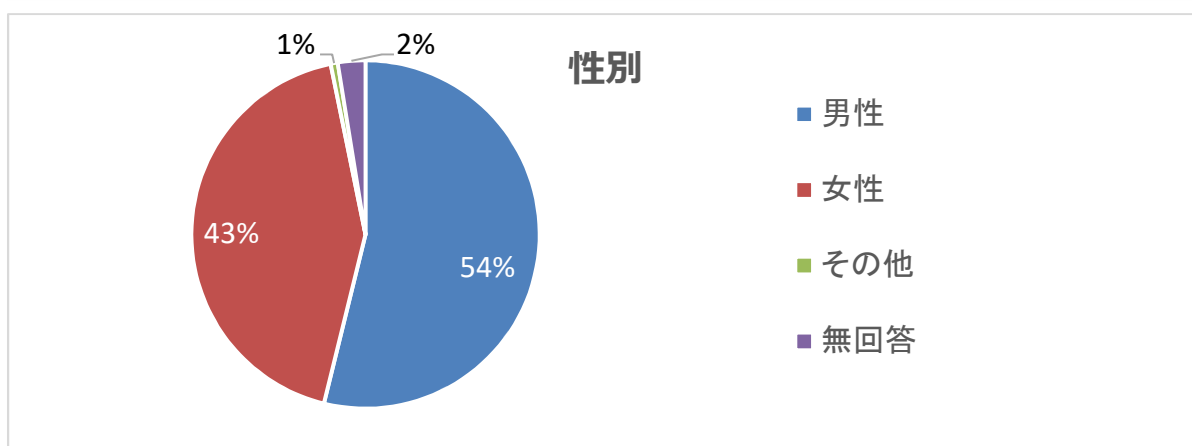
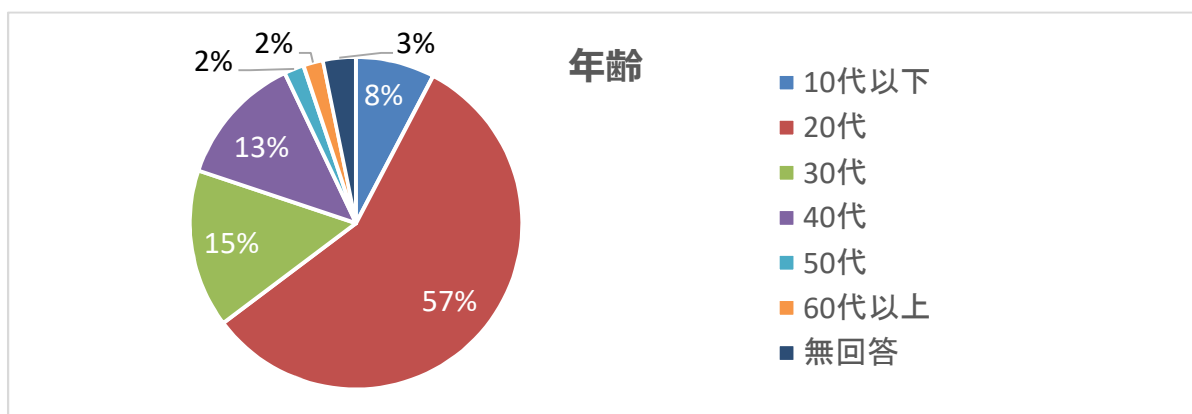
■ お客様情報

年齢 10代以下 20代 30代 40代 50代 60代以上

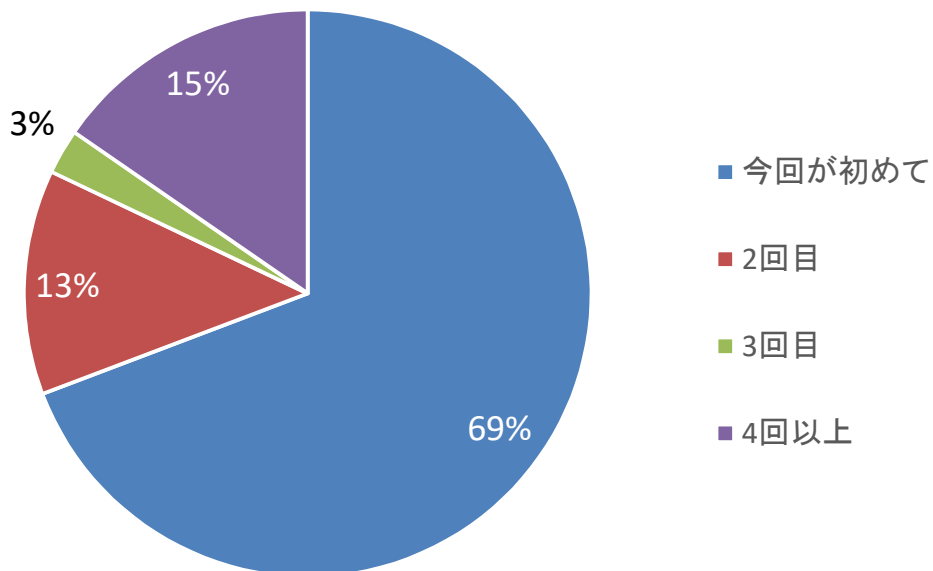
性別 男性 女性 その他

居住地 仙台市内 仙台市以外の宮城県内 その他

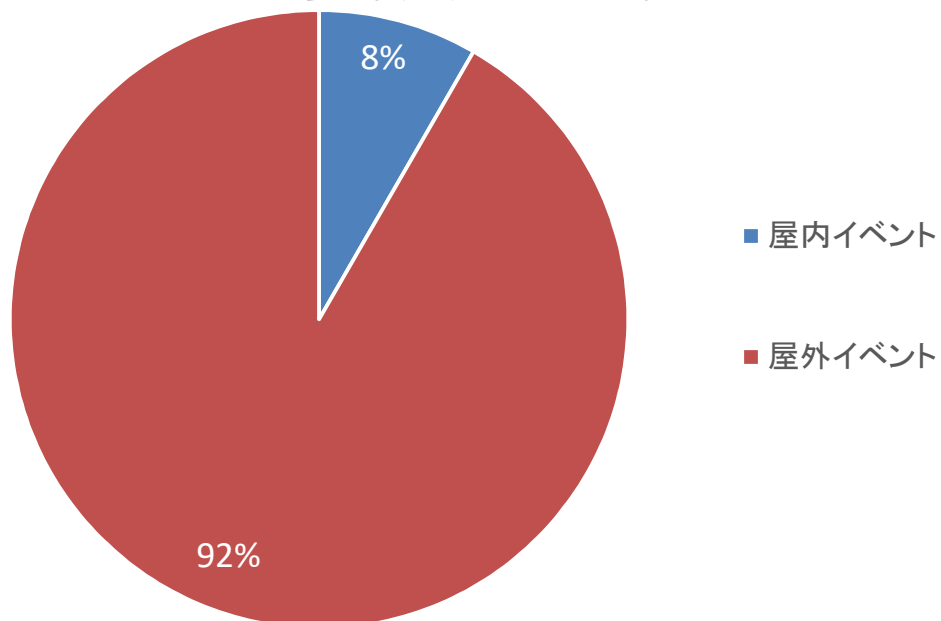
カテゴリ 出店者 出演者 運営スタッフ 設備関係 警備関係 その他



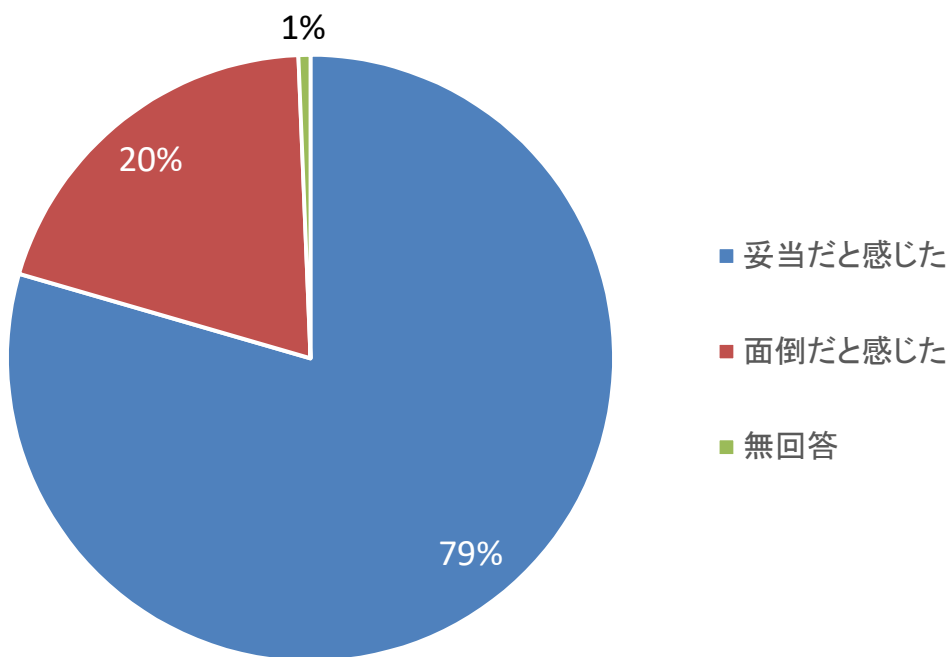
Q1新型コロナウイルス流行後の
イベント参加は何回目ですか？



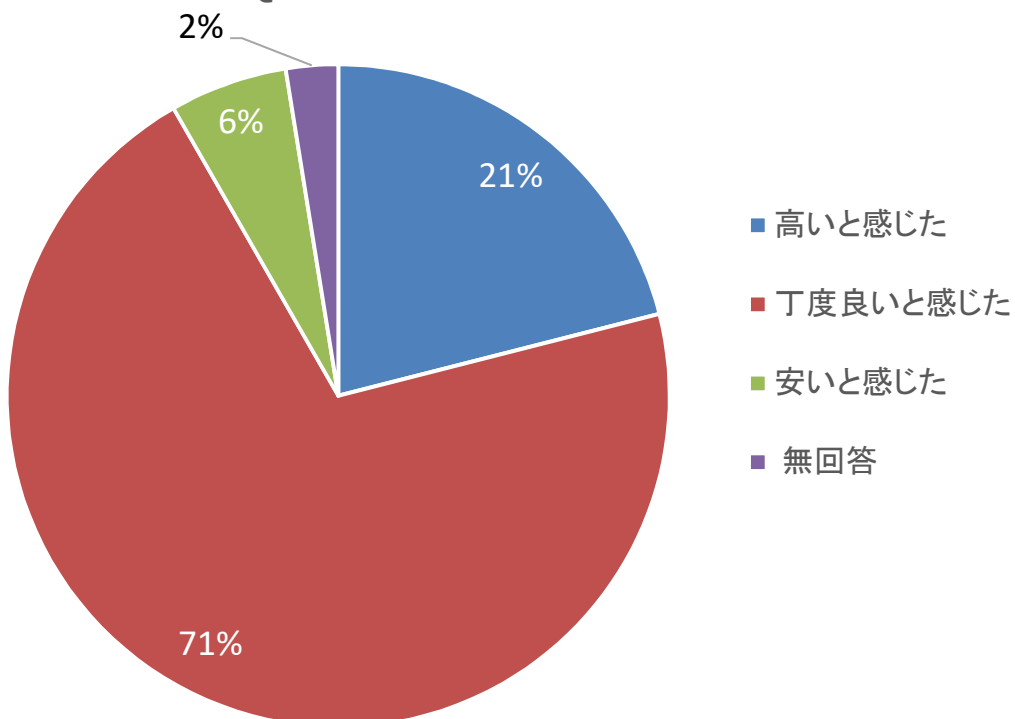
Q2屋内イベントと屋外イベントでは
どちらが安心だと感じますか？



Q3入場者を限定するチケット制について

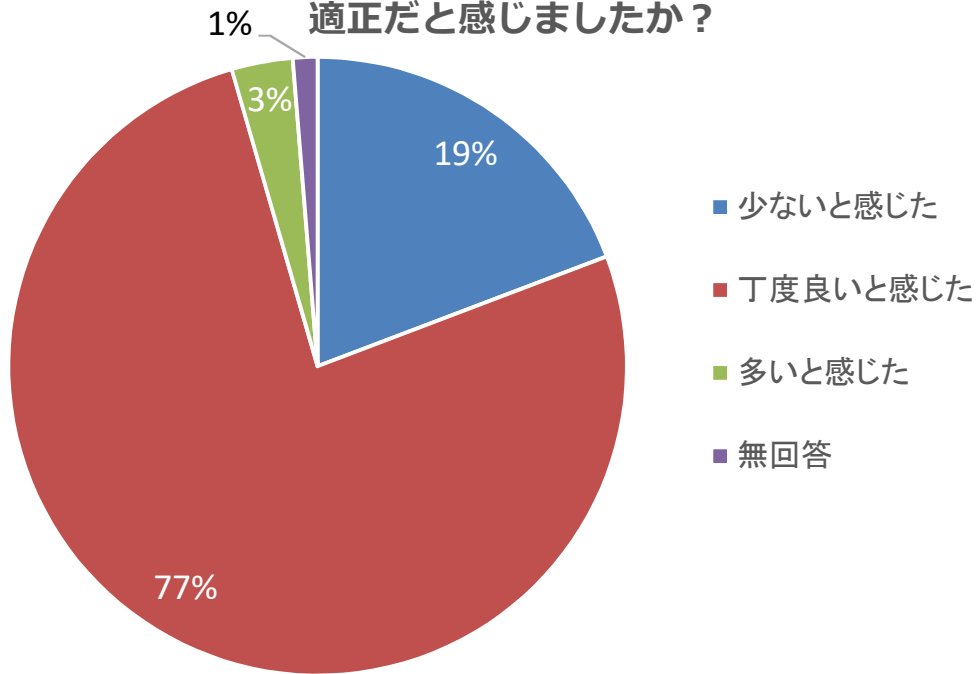


Q4入場チケット料金について



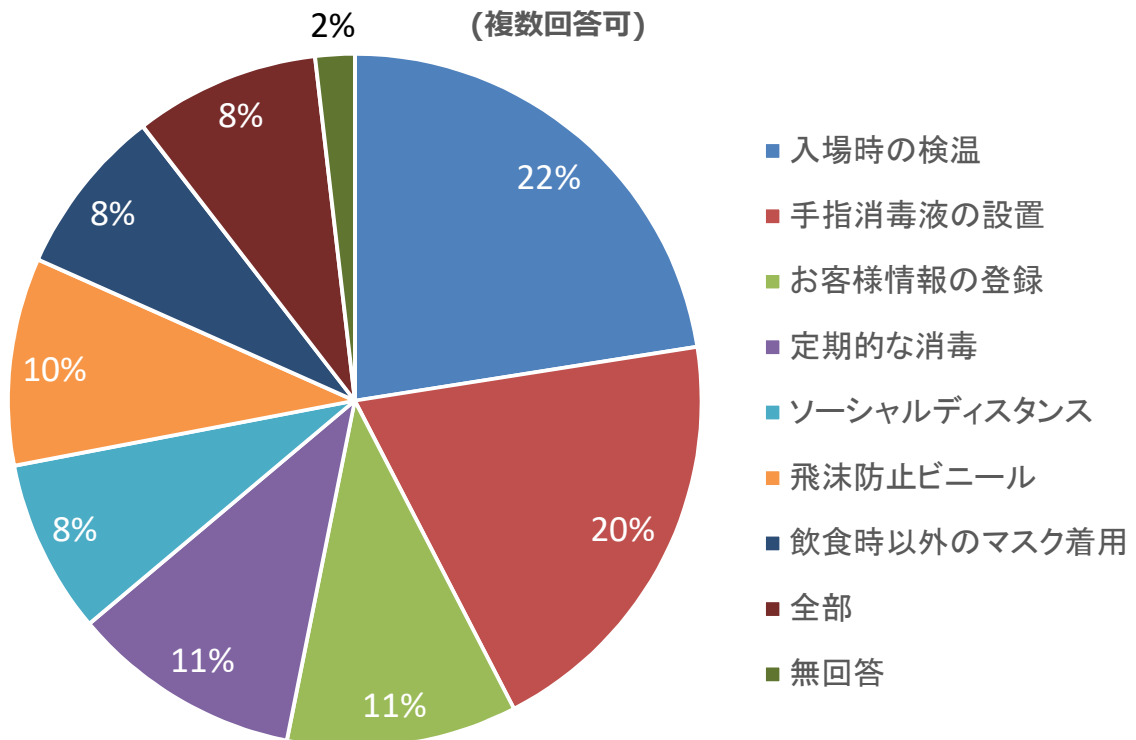
Q5会場内の収容人数は

適正だと感じましたか？

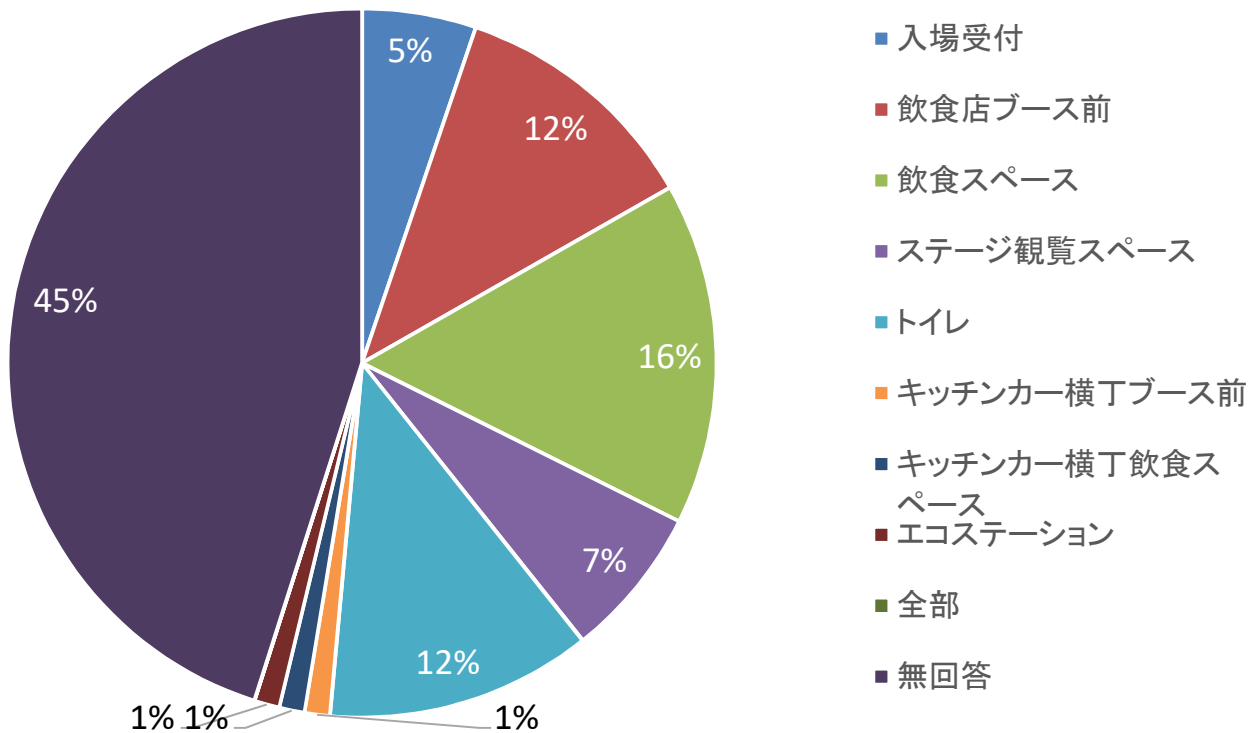


Q6イベント会場内のコロナ対策において、安心感を得られたものについて

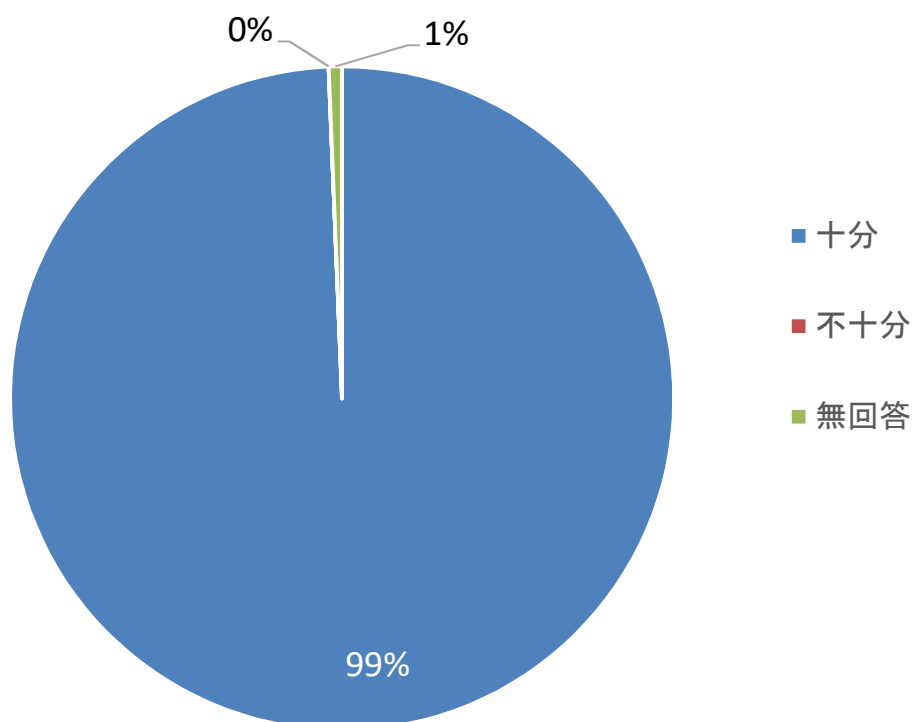
(複数回答可)

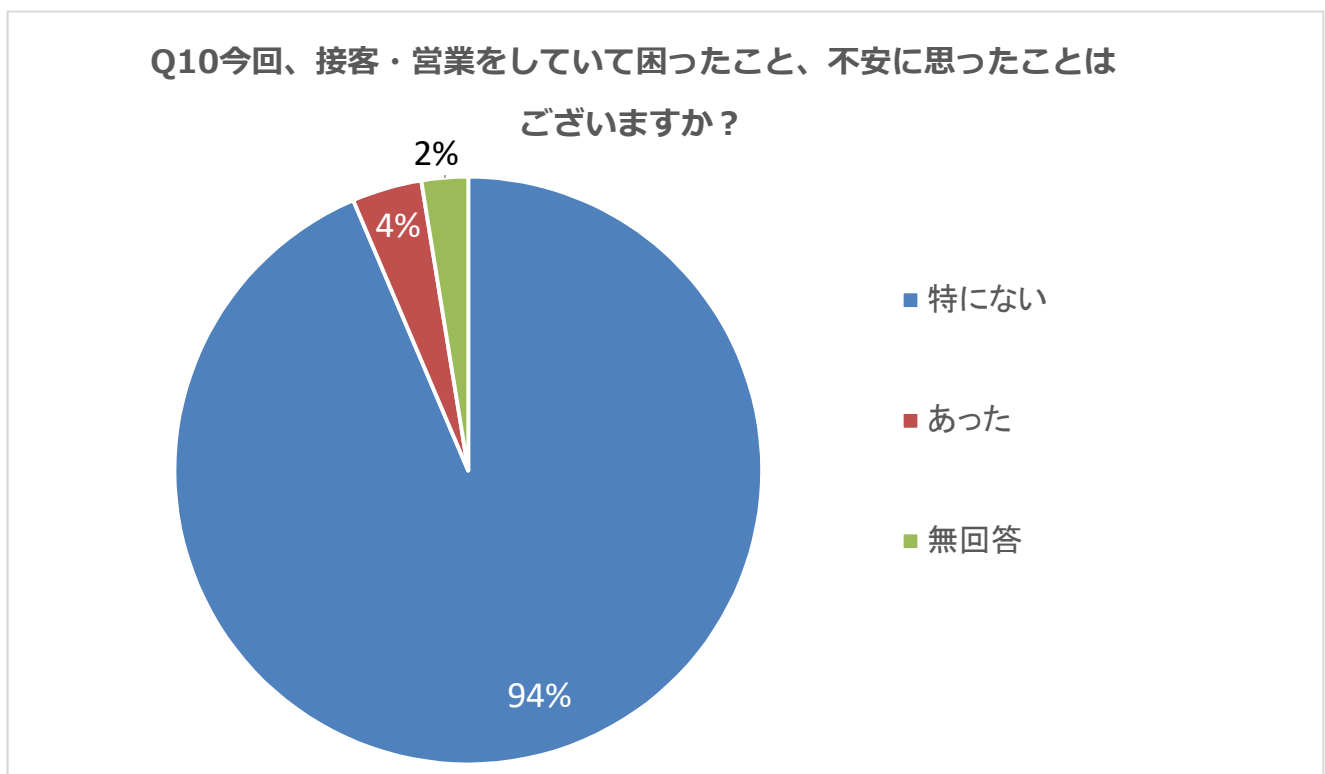
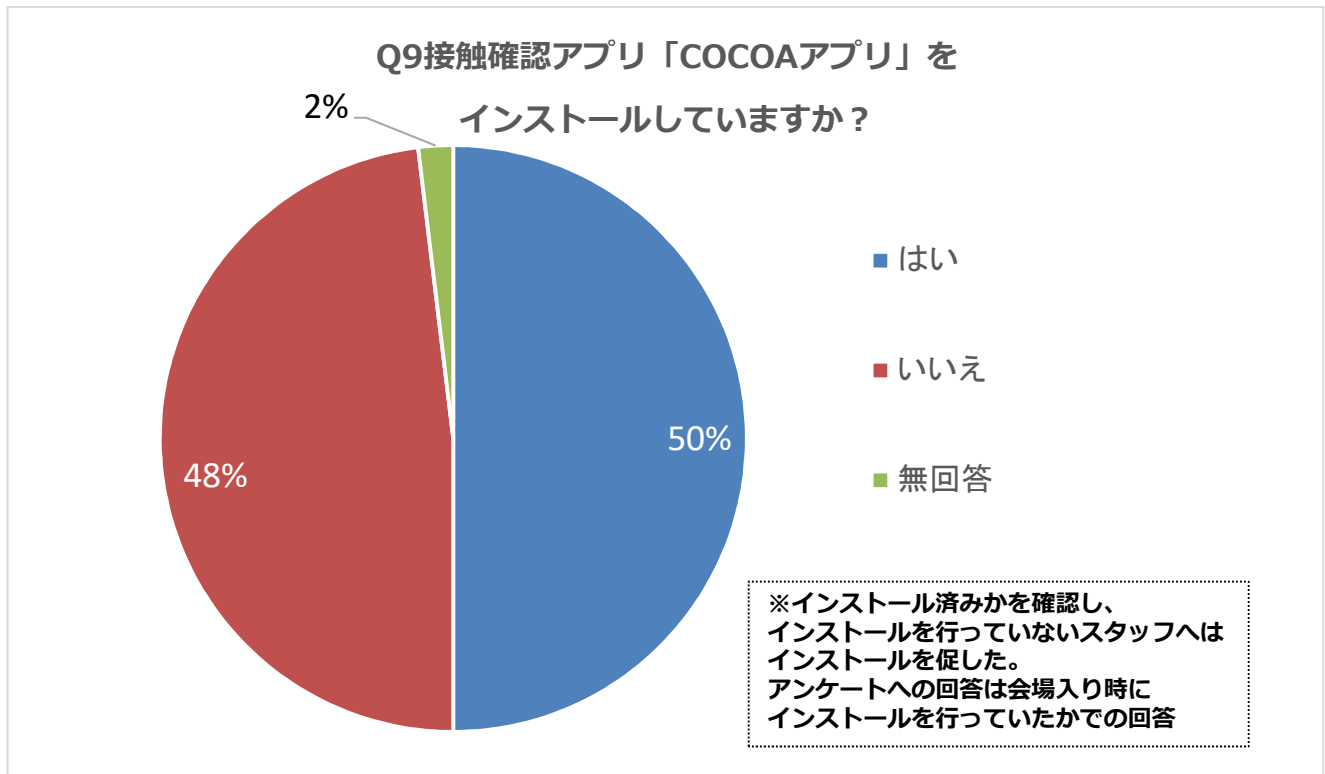


Q7 イベント会場内で密を感じたところは
ありますか？(複数回答可)



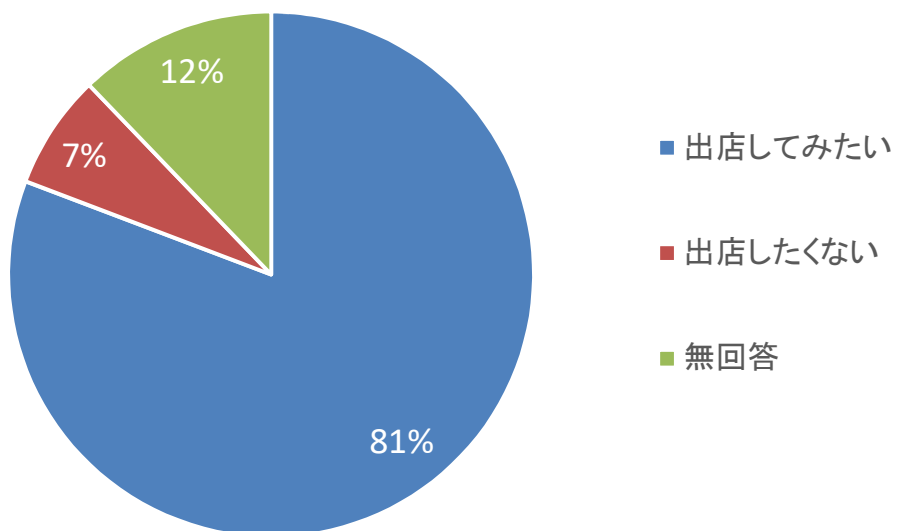
Q8 イベント会場内のコロナ対策において、場内でのアナウンスや周知
は十分でしたか？





(あった)
 ・お客様が少ない ・意外と飲食している人たちが密集していたこと
 ・限られたスペースでの場所だったので、並ぶ際若干の密が感じられた

Q11今回と同じようなコロナ対策を講じた
イベントがまた開催されるとしたら？



(出店したくない)
・大変だから ・売上を考えると難しい

【 収支報告 】

1. 収入

項目	決算額	内 容	金 額
◇収入の部(消費税込み)			
■ 出店ブース出店料		うち、会場内新型コロナウイルス感染症対策費用及び仙台市内医療現場への寄付分	
■ 入場料収入(入場料収入-食券使用分)	¥3,224,130	500円×チケット購入者数 = 500円×2,576人	¥3,224,130
■ 協賛社収入			
■ 仙台市補助金	¥6,000,000	補助対象経費8,729,770円×補助率3/4 (上限6,000,000円)	¥6,000,000
▽ 出店ブースオプション備品手配・ガスボンベ手配	¥291,400	オプション備品手配¥163,800+ガスボンベ手配¥127,600	¥291,400
収入総合計	¥9,515,530		¥9,515,530

2. 支出

項目	決算額	内 容	通常イベントで必要となる経費	感染症対策のための追加経費
◇支出の部(消費税込み)				
■ 会場使用料	¥82,750	仙台市青葉区役所	¥82,750	
■ 会場設置関連	¥2,631,500	(1)ステージテント(トラス組み)出店ブーステント、休憩テントなどテント関連(横幕、ウェイト、蛍光灯含む) (2)テーブル、イス、ベンチなど (3)その他、各種運営備品(消火器、ブルーシート、カラーコーン、控室備品など) (4)発電機(燃料)、仮設電源工事関連 (5)設置、撤去、運搬関連、保守管理、消耗品など	¥754,700 ¥234,400 ¥151,200 ¥741,200 ¥750,000	
■ 会場設置関連における感染症対策費用	¥868,500	(1)感染症対策により必要となったテント関連⇒入場口、再入場、退場口(横幕、ウェイト、蛍光灯含む) (2)感染症対策により必要となったイス・テーブル⇒入場口、再入場、退場口 (3)イレクターフェンス:300台 (4)飲食エリアの飛沫対策ビニールシート:64枚 (5)サーマルカメラ・PC・モニターセット:2セット (6)サーマルカメラ管理者 (7)消毒備品 ・手指消毒オートディスペンサー:7台 ・除菌マット:12枚 ・抗菌マット:11枚 ・除菌マット用除菌剤:4L ・アルコール消毒液:20本 (8)その他 感染症対策備品 ・非接触型体温計:5台 ・オゾン除菌消臭器:9台		¥62,500 ¥7,200 ¥240,000 ¥192,000 ¥190,000 ¥40,000 ¥81,800 ¥55,000
■ 感染症対策により必要となった看板類	¥550,000	・感染症対策により必要となった看板関連		¥291,610
■ 会場内造作・看板関連		・案内看板・出店社サイン等	¥258,390	
■ 運営スタッフ人件費		運営ディレクター/4名	¥330,000	
■ 感染症対策により必要となった追加人員	¥1,556,950	運営補助スタッフ/12名 運営ディレクター:感染症対策による追加/3名(入場口2名+当日券発売1名) 運営補助スタッフ:感染症対策による追加/22名(場外誘導、入場口、再入場・退場口、当日券、消毒など)	¥316,800	¥247,500 ¥586,750
■ 警備員	¥537,310	チラシサンプリングスタッフ人件費 ①搬入警備1名 ②夜間警備2名×3日 延べ6名 ③本番警備/2名×2日 延べ4名 ④感染症対策による追加2名×2日 延べ4名	¥75,900 ¥13,200 ¥310,270 ¥106,920	¥106,920
■ 看護師	¥32,785	1名×2日	¥32,785	
■ 広報宣伝費・各種ツール製作物など	¥774,558	広報物制作(キャッチコピー・テレレクシオン・デザイン) ポスター(B1・50部) ポスター(A2・400部) チラシ①(A4 4C/4C・10,000部) チラシ②(A4 4C/4C・10,000部) チラシ③(A4 4C/4C・7,000部) 当日パンフレット(B4見開き 4C/4C・5,000部) バブ用ポスターパネル制作費 仙台市地下鉄南北線イベントポード掲出費 仙台市地下鉄南北線イベントラック掲出費 チラシサンプリング用道路使用許可申請	¥307,000 ¥66,440 ¥15,125 ¥44,561 ¥58,454 ¥32,582 ¥85,096 ¥4,400 ¥132,000 ¥22,000 ¥6,900	
■ 感染症対策により必要となった製作物	¥323,636	広報物制作(デザイン・テレレクシオン) 店舗販売用 前売り入場チケット印刷費 当日券券券代(印刷費) リストバンド製作費 飲食券印刷費 マスクケース製作費		¥100,000 ¥40,040 ¥52,800 ¥62,860 ¥33,770 ¥34,166
■ 各種備品類 購入物・手配物	¥174,144	実行委員会印鑑製作 ピプス(60枚 XL30・L30) 各種現場備品購入関係① 各種現場備品購入関係② 仙台清掃公社 ゴミ袋代	¥3,960 ¥41,250 ¥21,786 ¥21,623 ¥85,525	
■ 雑雑費	¥265,580	各種資料出力・コピー、ラミネート加工等① 各種資料出力・コピー、ラミネート加工等② 各種資料発送費	¥220,000 ¥44,000 ¥1,580	
■ イベント保険	¥34,220	賠償責任・傷害保険	¥34,220	
■ 音響費・照明費	¥440,000		¥440,000	
■ 宮城大学アンケート集計協力費	¥40,000			¥40,000
■ 事務局経費	¥417,837	運営マニュアル、進行台本、各種資料製作、事務局運営経費、各種制作・進行管理費	¥417,837	
※補助対象外項目: ¥785,760				
▽ 司会者謝礼	¥88,000		¥88,000	
▽ ステージ出演者謝礼	¥200,000		¥200,000	
▽ 出演者弁当代	¥40,800		¥40,800	
▽ 出演者JASRAC著作権料	¥11,000		¥11,000	
▽ 出店ブースオプション備品手配・ガスボンベ手配	¥291,400	オプション備品手配 ¥163,800+ガスボンベ手配 ¥127,600	¥291,400	
▽ 仙台市内医療現場への寄付	¥154,560	入場チケット1枚あたり60円を寄付(60円×2,576人=154,560円) ※寄付については、仙台市医師会様と調整中です。 寄付後は仙台食堂2020Facebookにてご報告いたします。		¥154,560
支出総合計	¥9,515,530		¥7,050,614	¥2,464,916

3. 予算設定について新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて工夫したこと、苦慮したこと

(1) 収入

■ 出店料収入の減少について

- ・本イベントにおいては、以下の①と②を考慮し、出店料を通常の1/4~1/5程度に設定したため、イベント収入の中心となる出店料が大幅に減少した。
 - ①イベント自体が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で苦戦している宮城県や仙台市内の飲食店、生産者を応援することを目的として企画しており、出店料を安価に設定した。
 - ②会場における密防止のため、入場制限を実施することとしており、その結果として出店者の売上が大幅に減少することが見込まれた。

■ 有料チケット入場制の導入について

- ・出店料収入は減少するが、イベントを成立させる収入を確保するため、有料チケット入場制を導入することとした。1,000円分の飲食券が付属するチケットを1,500円で販売し、残りの500円は会場内の新型コロナウイルス感染症対策経費と、仙台市内医療現場への寄付に充てることとした。ただし、有料入場チケットの事前販売を行うにあたっては、入場チケットの印刷経費、飲食券の印刷費、各種プレイガイドを利用したオンライン販売の手数料が必要となる点も考慮して収支計画を策定する必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症対策経費も高額となったため、仙台市内医療従事者への寄付に充てる金額は当初のよりも低額となった。

■ 協賛社収入について

- ・有料チケット入場制の導入にあたり、実質500円を入場料として徴収することとなるため、お客様がどのような印象を受けるのか不安であり、販売数が見通せない状況であった。そこで、確実に収入を得るため、広告代理店に協力をいただき、ビールメーカー様等への協賛アプローチを実施することとしたが、コロナ禍において入場いただけるお客様の数にも制限をかけることとなるため、協賛金を支出していただくためのメリットの説明や、特典などの設定が難しく、協賛金額の決定には苦慮した。
- ・しかし、今回は協賛することのメリットよりも、企画主旨に賛同いただけたこともあり大手ビールメーカー様に4社揃ってご協賛いただけた。これにより、収入面でも大きく助けられた。

(2) 支出

■ 感染症対策経費の増大

- ・イレクターフェンスを設置しての会場囲み、入退場口での検温の実施や整列の誘導など、これまでにない入場形式や、運営形態にチャレンジした。また、新型コロナウイルス感染症対策を適切に講じるために運営マニュアル等を策定していくと、必要な設備、備品、人員数が当初の想定よりも大きく膨らみ、収支を圧迫した。
- ・特に、コロナ前のイベントでは必要のなかった大量のイレクターフェンスを始め、入場口、再入場、退場口の設置による各種準備物、大型休憩スペースを設けることによる大量の飛沫対策ビニールシート、看板製作などの準備物に係る費用は増大し、また、運営スタッフの数は通常イベントの配置の3倍ほど必要となった。
- ・また、設備のみでなく、感染症対策のマニュアルの策定や、各種注意喚起用のサイン制作、運営管理面での資料作成、行動記録及び健康観察記録の記入や保管など、目に見えにくい支出(事務局負担)が通常の数倍にも及ぶことを忘れてはならない。

■ 関連会社のご協力

- ・収支予算の策定に頭を悩ませたが、結果的にイベントを成立できたのは、関連会社様のご協力によるところが大きい。会場設営や造作物、人員、警備、音響等、ほぼ全ての関連会社様に、通常よりも大幅に見積もりを値下げしていただいた。

4. イベントを終えての収支面での課題など（感染症対策の過不足等について）

(1) 収入

■ 有料チケット入場制について

- ・今回は、チケット販売目標であった800名×4パート=3,200名の集客には届かなかったが、8割以上のチケット購入には結びついたため、有料入場制という実施形式の可能性は見いだせたと思う。
- ・ただし、その価格が妥当かどうかを見極めて金額設定することが重要である。今回行った来場者アンケート200名の結果では入場チケット料金に関して83%が妥当、9%が安いとの回答結果であり、90%以上は好意的に捉えていただけていたため、500円の入場料は適正価格であったと思われる。
- ・しかし、チケット購入者のみに対するアンケートであり、有料チケット入場制の導入は適正だと思う、来場に結びつかなかったお客様が多数いることも考えられる。

■ 協賛社収入について

- ・イベント参加人数を制限する場合には、出店者の売上も減少することから、コロナ前のような出店料の設定は困難である。よって、収入面をカバーするには協賛社収入が必要であるが、参加者数が制限されるイベントにおいて、協賛いただくためのメリットを提供できるかが課題と思われる。

(2) 支出

■ イベント開催エリアの設定について

- ・イベントの開催エリアを市民広場エリアだけでなく、カフェ前広場まで広げたことで支出が増大した。
- ・エリア増大に加えて会場が分断されることにより、エレクターフェンスや入場口、再入場、退場口、休憩スペースなどを増設する必要があり、設備、備品、人員の追加準備が必要となった。
- ・イベントの運営面においても、会場が分断されたことにより、市民広場からカフェ前広場へお客様をスムーズに誘導することに苦勞し、カフェ前広場の集客面にも苦戦を強いられた。カフェ前への誘導については、市民広場内へのサインの設置や場内アナウンスの追加などにより、2日目は大幅に改善された。
- ・しかし、イベント全体で判断した場合、カフェ前広場までイベント開催エリアを拡大したことは、デメリットばかりが目立ち、メリットは見い出せなかった。市民広場エリアのみの開催に留めておけば、大きなコストダウンが見込まれた。

■ 新型コロナウイルス感染症対策経費について

- ・感染リスクの低減について、慎重になればなるほど、設備や備品など支出が増えていく一方である。感染症対策については収支と照らし合わせ、どこで落ち着きどころを見つけるかが大きな課題である。

5. その他

■ 出店者への誘導整理員配置の依頼について

- ・少しでも主催者手配の運営スタッフ人数を削減するため、飲食店様に対し、自社のブース前に待機列が発生した際の整理誘導員について、各社から専属で1名配置いただくよう協力を依頼した。出店者の負担は増加したが、配置されたスタッフは、自社ブースへの呼び込みをしつつ、待機列発生時はソーシャルディスタンス確保の誘導を出来ていたため、効果的な取り組みであったと考える。

■ アンケート調査への宮城大学の協力について

- ・本イベントの開催中、会場内で来場者に対するアンケート調査を実施した。アンケートの実施にあたっては宮城大学の「コロナ禍における人の集まる場の作り方」という研究テーマを持つ研究室にご協力いただいたため、アンケート実施や集計作業においては当初の見込み予算より少額で実施することができた。
- ・感染症等についての調査を予定しているなど、達成目標が同じである団体等と協力するという点でヒントとなった。

■ 会場の雰囲気をもくする工夫について

- ・飲食&休憩スペースのテント内に設置した飛沫対策ビニールシートに、カラーペンでメッセージやイラストを描き込んだ。コロナ禍のイベントでは、感染防止備品などに囲まれ、会場が殺風景になりがちであるが、備品をイラスト等を演出の一つとして生かすことができ、お客様からも好意的なお声をいただくことが出来た。

6. 収支面についての総括

- ・本イベントは、通常の勾当台公園で開催されるイベントとは異なる、以下の形式をとっての開催となった。
 - ①入場者数の制限と完全入替制の実施（1パート800名：1日1,600名×2日＝最大で3,200名の入場者。）
 - ②有料チケット入場制の導入（1,500円のチケット販売。1,000円分の飲食券付、500円は入場料扱い。）
 - ③場内での最大滞在時間の設定（その上での完全入替制）
- ・これにより、コロナ前のイベントでは必要のない制作物や設備、備品、人員、各種準備作業などが多く生じるが、来場者数を事前に制限できるメリットがあるため、現場で混乱が起こる可能性は非常に低くなる。
- ・有料チケット入場制については、お客様から見て入場料が適正価格であれば、コロナ禍においても、屋外イベントで十分採用されうるものだと考える。
- ・今回は目標入場者数に達することは出来なかったが、本イベントの開催については、市民の皆さまに知られていたように感じられるため、仮に有料チケット入場制をとらなかった場合には、会場の外の入場待機列で混乱が生じた可能性がある。結果的に、有料入場チケット制の導入は適切であったと感じている。
- ・イベント開催エリアとしては、市民広場エリアのみを使用することとし、カフェ前広場を使用しなければ、より理想に近い収支計画で終わることができたと思われる。
- ・最大の課題は収入面である。飲食イベントの場合、来場者数を制限する場合には、出店者の売上も減少するため、コロナ前のイベントと同程度の出店料を徴収するのは非常に難しく、入場料収入や協賛社による協賛金が重要となる。その他に収入を得ることが出来る施策を引き続き模索していきたい。
- ・上記の通り、収入面ではこれといった打開策が見つからない中、新型コロナウイルス感染症対策に慎重になればなるほど、設備、備品、人員など支出が増えていく一方であるため、お客様にも安心して楽しんでいただけるような感染症対策について、全体収支計画と照らし合わせ、バランスのよい落ち着きどころを見つけるしか無いと思われる。